

ANNUAL REPORT

2023 – 2024

No. 47



Department of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

大学・大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学から、修士（ビジネス）を取得するMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。
2017年	社会工学学位プログラム内に、地域未来創生教育コースが開設される。
2020年	社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラムが、新設の理工情報生命学術院・システム情報工学研究群の内部に位置付けられる。

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2024/6/30 現在)

課題名(領域)	概要	代表者
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す.	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三

空間情報の社会的活用(複合系)	<p>地理情報はビッグデータの時代を迎えて、IoT 化の進展や ICT 技術により大量化・高度化しているが、近年重要性を増している情報技術の社会実装と政策展開の課題のなかで、有効かつ的確に活用する可能性が広がっているにも関わらず、いまだその活用は不十分である。本リサーチユニットは、未来社会の空間設計に向けて、地理情報ビッグデータの集約と活用方法の開発、そして、数理モデリング技法による空間意思決定方法への応用の研究を推進することを目的とする。この活動により、犯罪・災害などのリスクに対する安全研究、安全・効率的で環境負荷の少ない交通体系の研究、老朽化する都市基盤施設の維持更新や集約型のコンパクト・アンド・ネットワーク型の都市計画の研究等において、これまでの方法では見えてこなかった空間データを応用した意思決定の社会実装方法や、即効性の高い政策展開を支える社会的な仕組みを提示することができるようになることを目指す。</p>	鈴木 勉
-----------------	---	------

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員 (2022/6/30 現在)

課題名	概要	代表者
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を越えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループでは、環境経済学、都市環境計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究	我が国の信用調査会社の企業間取引データや位置などの各種の地理空間情報を活用することで、我が国の様々な産業について、これまで見ることの出来なかった事業所間取引やその階層構造、事業所立地の動向など、経済再生・地方創生・国土強靱化に資する産業・企業研究を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	デジタル・コンテンツ著作権保護やグループ検査技術の開発、通信のための符号や系列の性能解析や構成法、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPS タクシー配車歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発、顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析、省エネ型データセンターのモデル化と性能評価を行う。	繆 瑩
都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援や交通安全教育など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	谷口 綾子
社会メカニズム工学	複雑な社会・経済・経営現象のメカニズムを工学的にモデル化、可視化、シミュレーションし、制度設計に活かす新たな学際研究分野を創出する。 ・キーワード: マーケット・デザイン、複雑ネットワーク解析、社会シミュレーション、可視化、マネジメント・サイエンス	秋山 英三
マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用	本研究は、個人や家計の選好パラメータを推定する新たなマイクロ計量経済学的手法の開発とその応用、及び実証モデルの基礎となる経済理論モデルの構築を行うことを目的としている。	大久保 正勝

都市・地域の経営とデザイン

分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。

有田 智一

II. 教員一覽

2024/6/1 現在

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション、行動実験	資産市場取引におけるバブル発生機構の研究、協力行動の進化の研究、力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
イリチュ(佐藤) 美佳	統計科学、多次元データ解析	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
奥島 真一郎	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析	エネルギーと環境に関する脆弱性と貧困、モラルモチベーションと環境政策、環境とエネルギーに関する新たな指標の開発
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	公共情報共有による問題解決、都市開発分野の国際協力
澤 亮治	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論	進化ゲーム理論を利用した社会慣習・社会制度・メカニズムの安定性分析
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	都市解析、立地科学、地理情報科学	計画数理、立地分析、施設配置計画、都市形態、公共サービス、公共交通計画、都市リスク管理、地理情報の応用
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスクコミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション、新技術の社会的受容
谷口 守	都市計画・交通計画・環境計画、保全型都市計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	空間計量経済学、空間統計学、地理情報科学、土木計画学	空間計量経済学、空間統計学、組成データ解析、不動産の価格・資料・空室率、産業立地、社会資本のストック推計、道路の維持管理、応用都市経済モデル

飛田 幹男		
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究
繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式	デジタル指紋符号・グループ検査方式・多元接続通信符号・分散ストレージシステム符号・プライバシー保護方式の構成及びアルゴリズムの開発
村上 暁信	都市計画、緑地計画、環境シミュレーション	ランドスケープ・プランニング、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、都市と農村の一体的整備、気候風土と景観
吉瀬 章子	数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	錐最適化問題に対するアルゴリズムの理論と応用、サービス工学における最適化モデルの構築
渡辺 俊	建築情報学、都市情報学、空間情報学、デザイン科学	ポスト定住化社会に関する研究、設計方法論に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	犯罪の空間統計学的分析と防犯まちづくりに関する研究、人口減少下における郊外の将来像に関する研究、環境の認知と評価・認知地図・回復環境・場所愛着・領域性など環境心理学研究全般、GIS/GPS/センシング技術を用いた人間行動や社会問題の解析
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	個人の意思決定問題全般：後悔状況におけるメタ認知能力と適応的行動の関連性、環境保全行動、更生支援活動などの社会貢献・支援活動を促進・抑制する要因の分析、ギャンブル行動、サービス提供側と受け手側とのインタラクションに関する研究、慢性ストレスが生理・心理状態に及ぼす影響など
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知

浦田 淳司		
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
Eom, Sunyong	都市解析、空間情報科学、都市計画	土地利用計画、都市のリスク管理、持続可能型都市構造、施設立地計画、ビッグデータを用いた都市の診断
甲斐田 直子	環境経済学、環境心理学	環境配慮行動・環境価値観・態度の分析、行動変容方略の検討、環境自然資源価値の経済評価
作道 真理	応用計量経済学	
佐野 幸恵	社会経済物理、ネットワーク科学、ウェブサイエンス、計算社会科学	社会現象の数理モデル、ソーシャルメディア分析、学術ネットワーク分析
高野 祐一	数理最適化、金融工学、機械学習	ポートフォリオ選択、統計的モデル選択、推薦システム、数理最適化技法（最適化モデル・アルゴリズム）の開発と応用
Phung-Duc, Tuan	応用確率論、確率モデル、待ち行列理論、性能評価、オペレーションズ・リサーチ	サービス・社会・情報システムの確率モデルに関する研究
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論、組合せ論におけるトポロジー的手法
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、建築規制・まちづくり法制、地区まちづくり、住環境整備	都市計画制度の活用効果と課題、地域独自のルール・仕組みづくり、地域住民等の発意を活かした地区まちづくり、既成・郊外住宅地や住宅団地の再生、地域資源を活用したまちづくり
松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市計画史
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究

和田 健太郎	交通工学、土木計画学	
--------	------------	--

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	生産システム工学、オペレーション管理、技術経営、コンピューターデバイス	QCDR モデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法、超受注生産システム、技術経営と地域活性化（経営管理 DMAIC-PDCA サイクルを念頭においた IoT・ビッグデータ解析と計画最適化の応用研究を含む）

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
阿武 秀和	理論経済学	ミクロ経済学、マーケットデザイン
牛島 光一	応用計量経済学、健康の経済学、教育の経済学	様々な政策や暴力紛争が人的資本（教育水準や健康）の蓄積に与える影響に関する実証研究
折原 正訓	企業金融・企業統治、税制、法と経済学	税制・法制度など公共政策と企業金融・企業統治との関係の実証分析
木下 陽平	測地学、気象学、リモートセンシング	
黒瀬 雄大	統計、計量経済学	ベイズ統計学、状態空間モデル
志田 洋平		
高橋 裕紀		
Tran Lam Anh, Duong	国際経済学、経済成長、所得分配	国際貿易が経済成長と富の分配に与える影響の分析
三崎 広海	統計学、計量経済学、計量ファイナンス	高頻度データ解析、資産価格の分散・共分散、金融リスク管理、状態空間モデル、粒子フィルタ

氏名	秋山 英三	職名	教授
学位プログラム（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
学位プログラム（博士前期課程）	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：学 類 社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論
大学院 社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数： 社会工学類 3人
社会工学学位P（前期）6人
社会工学学位P（後期）2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・基盤研究 (C)新規投資家の継続的な参入が価格形成・価格変動に与える影響（代表）
 - ・基盤研究 (C) 市場参加者の価格予測の異質性と市場の振る舞いの関係について（代表）
 - ・基盤研究 (B) 経験財消費のための情報収集行動とその支援情報提供システム
（代表者：石川竜一郎）
 - ・基盤研究 (B) 信用スコア社会に対応可能な評判管理システムの設計（代表者：岡田勇）
 - ・基盤研究 (B) ゲーム理論・意思決定理論への理性制約・準理性制約の導入とその影響
（代表者：金子守）
- ◆ 著書・論文等：
 - DOI あり論文
 - ・ Umetani, R., Yamamoto, H., Goto, A., Okada, I., & Akiyama, E. (2023). "Individuals reciprocate negative actions revealing negative upstream reciprocity," PloS One, 18(7), e0288019. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0288019>
 - ・ Inaba, M., & Akiyama, E. (2023). "Evolution of cooperation in multiplex networks through asymmetry between interaction and replacement," Scientific Reports, 13(1), 9814. <https://doi.org/10.1038/s41598-023-37074-4>

■DOI なし論文

- ・栗栖 慶太, 秋山 英三 (2024), "重みが動的なネットワークにおいてネットワーク構造が協力の進化に与える影響," 情報処理学会論文誌, Vol.65, No.1, pp.61-68 (2024-01-15)
<http://id.nii.ac.jp/1001/00231731/>
- ・名倉卓弥, 秋山英三. (2023). "SNS におけるトピックス数の増加が意見の分極化とエコーチェンバーに与える影響," 人工知能学会論文誌, 38(4), B-N11_1-9
- ・栗栖慶太, 秋山英三 (2023). "パンデミックにおける感染者数と経済ダメージの抑制に最適な人的移動制限率の検討," シミュレーション & ゲーミング 33.1: 11-22.
- ・秋山英三, "進化ゲーム理論の進化：マルチエージェントシミュレーション, 実験室実験と, LLM の行動経済学," 人工知能学会論文誌, 8 pages, forthcoming.
- ・小菅雷太郎, 若林直希, 山本仁志, 秋山英三, 栗原聡. (2024). "繰り返し囚人のジレンマゲームにおける表情センシングを活用した人の感情と行動の分析," 行動変容と社会システム Vol. 10, 5 pages, 2024.
- ・秋山英三. (2023). "群淘汰状況下における罰則・報酬の進化," 信学技報, 122, 36-41.

◆ 学会発表等：

- ・ Akiyama, E. and Ishikawa, R., "Cognitive Abilities and Experimental Green Finance," Experimental Sustainable Finance Symposium, April 26, 2024, Nijmegen School of Management, Nijmegen.
- ・小菅雷太郎, 若林直希, 山本仁志, 秋山英三, 栗原聡. (2024). "繰り返し囚人のジレンマゲームにおける表情センシングを活用した人の感情と行動の分析," 行動変容と社会システム研究会, March 5, 2024, ルスツリゾートホテル.
- ・ Nagura, T. and Akiyama, E., "The Effect of Increasing Number of Topics to Polarization and Echo Chambers on Social Media," Hawaii International Conference on System Sciences, January 3, 2024, Hawaii, USA.
- ・秋山英三, "資産市場の心理学：バブルの背後にある人間行動の実験分析." 第 18 回共知塾, December 21, 2023, 慶應義塾大学 HASS センター.
- ・稲葉 理晃, 秋山 英三, "環境変動が協力的集団の形成を促進する," 第 16 回日本人間行動進化学会, December 3, 2023, 大阪公立大学杉本キャンパス.
- ・秋山英三, "反復ゲームにおける Machine Agent の振る舞いと公平性・社会規範," Joint Agent Workshop & Symposium (JAWS) 2023, September 14, 登別グランドホテル (北海道登別市).

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 総合学域群 第二類 類長
 - 全学学群教育課程委員会
 - 全学学群教育課程委員会 専門導入科目等部会
 - 全学移行統括委員会 委員
 - 全学移行統括専門部会
 - 全学教学デザイン室 室員
 - 全学教育戦略会議
 - 全学入試検討タスクフォース 委員
 - 理工学群 総合政策室 室員
 - 総合学域群 運営委員会 委員
 - 全学学群教職課程委員会 委員（総合学域群類長として）
 - 情報環境委員会ネットワーク管理委員会 委員（総合学域群類長として）
 - キャンパス情報ネットワークシステム仕様策定委員会（総合学域群類長として）
 - 教学情報システム運用委員（総合学域群類長として）
- ◆ 学位プログラム組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 学類 運営委員
 - 学位プログラム 運営委員
 - 社工人事懇談会 世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

氏名	有田 智一	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市・地域政策, 都市計画制度、産業集積		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 社会工学類：都市と地域の経営行政論、社会工学演習、都市計画マスタープラン策定演習、現代まちづくりの理論と実践、建築関連法規（世話人教員）、建築経済（世話人教員）
- ◆ 社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ・社会工学ファシリテーター（ULIワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦1（世話人教員）
- ◆ 地球規模課題学位プログラム：Seminars on Global Issues A-II
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3名
 - 社会工学学位プログラム（博士前期） 8名
 - 社会工学学位プログラム（博士後期） 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・科学研究費補助金「オープンデータを踏まえた市民セクター主体のICT協働まちづくりに関する研究」（基盤研究(C)）（研究代表者）
 - ・「公的不動産の有効活用実現のための公民連携促進策とアセットマネジメント戦略のあり方」（奨学寄附金）（研究代表者）
 - ・基盤研究B「豪雨災害から避難弱者を守る共助的な避難行動計画づくりシステムに関する学際的研究」（研究分担者）
- ◆ 著書・論文等：
 - ・石井樹、川島宏一、有田智一「実効性のある避難支援実現に向けた個別避難計画作成における方針と課題に関する研究」地域安全学会論文集 43 (0), 79-86, 2023-11-01
 - ・西島優、関本崇志、有田智一「農村集落における区域区分制度を前提とした土地利用調整手法の実態と活用可能性に関する研究—茨城県桜川市を事例として」都市計画論文集 58 (3), 1211-1218, 2023-10-25

・有田智一「土地建物一体型市街地整備の「必要性」と「可能性」：これまでとこれから」
区画整理 66 (5), 6-14, 2023-05

・五條渉、有田智一、石崎和志、萩原一郎「建築法規概論」4訂版、実教出版

・大村謙二郎、有田智一、北崎朋希、太田尚孝『協働型都市開発：国際比較による新たな潮流と展望』近代科学社 Digital

◆ 学会発表等：

・西島優、関本崇志、有田智一「農村集落における区域区分制度を前提とした土地利用調整手法の実態と活用可能性に関する研究—茨城県桜川市を事例として」都市計画論文集 58 (3), 1211-1218, 2023-10-25

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系人事委員会委員

システム情報系運営委員会委員

免除等選考委員会委員

学術情報メディアセンター運営委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

理工学群社会工学類長

全学学群教育会議委員

理工学群運営委員会委員

理工学群入学者専攻委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価委員会委員

国土交通省危険物の貯蔵に係る規制の合理化に関する検討会委員

国土交通省住宅局市街地建築課集団規定の合理化方策に関する検討会 座長

東京都国土利用審議会会長

東京都住宅政策審議会委員

東京都住宅政策審議会企画部会部会長代理

東京都江戸川区都市計画審議会委員

東京都練馬区都市計画審議会委員

東京都渋谷区都市計画審議会委員
東京都品川区居住支援協議会会長
川崎市建築等紛争調停委員会委員
埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
松戸市建築審査会委員
取手市国土交通省所管公共事業再評価委員会委員長
守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長
守谷市空家等対策協議会座長
つくば市陸上競技場整備基本計画策定検討会議座長
桜川市都市計画審議会委員
那珂市都市計画審議会会長
日本建築学会学術推進会議委員
日本建築学会建築法制委員会委員長
日本建築学会建築法制委員会建築ストック社会における建築物の法適合性管理に関する研究
小委員会委員
日本建築学会建築法制委員会居住制限のための建築規制のあり方研究小委員会委員
日本都市計画学会常務理事
日本都市計画学会学術委員会委員長
不動産学会論文著作賞選考委員会委員
都市住宅学会関東支部常議員
都市住宅学会学術委員会委員
都市住宅学会学会賞委員会委員
財団法人再開発コーディネーター協会試験実務経験審査委員会委員長
Journal:” Planning Theory and Practice (Royal Town Planning Institute),” Editorial
Board(Taylor & Francis)

氏名	イリチュ（佐藤）美佳	職名	教授
学位プログラム（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム	専任	
	社会工学学位プログラム	分担	
学位プログラム（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム	専任	
	社会工学学位プログラム	分担	
	サービス工学学位プログラム	分担	
担当学類	社会工学類	専任	
研究分野	統計科学, データマイニング, ソフトコンピューティング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学/統計学/卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 I/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 II/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 I/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 II/リスク・レジリエンス工学概論（分担）/リスク・レジリエンス工学グループ PBL 演習（分担）/社会工学修士特別演習 I /社会工学修士特別演習 II/社会工学修士特別研究 I/社会工学修士特別研究 II

大学院後期課程 リスク・レジリエンス工学博士 PBL 演習（分担）/ リスク・レジリエンス工学博士特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 6人

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 4人

社会工学学位プログラム 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次元計量による高次元小標本型ビックデータ解析とその社会的応用」(代表)

◆ 著書・論文等：

(1)M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Classifier for Extraction of Individualities from High Dimension Low Sample Size Data, Intelligent Decision Technologies, IOS press, 17, 1, 127-138, 2023

(2)M. Sato-Ilic, P. Ilic, Fuzzy Cluster-Scaled Principal Component Analysis for Mixed Data and Its Application of Educational Effect based on Device Selection, Procedia Computer Science, Elsevier, 225, 2402-2411, 2023

- (3) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Difference on Evaluation Scores Considering Image Descriptions for Autocoding, Romanian Statistical Review, 1, 27-42, 2024
- (4) Y. Toko, M. Sato-Ilic, T. Sasajima, Improvement of Model Construction based on Reliability Scores of Objects for Autocoding, Romanian Statistical Review, 1, 34-48, 2023
- (5) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Hierarchical Support Vector Machine based Classifier for Autocoding, Procedia Computer Science, Elsevier, 225, 2733-2742, 2023
- (6) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Autocoding Methods for Family Income and Expenditure Surveys, Conference on New Techniques and Technologies for Official Statistics, 404-408, 2023
- (7) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Improvement of Training Data for Autocoding on "The National Survey of Family Income, Consumption and Wealth" and "The Family Income and Expenditure Survey", 日本分類学会第42回大会予稿集, 49-52, 2023

◆ 学会発表等：

招待講演：

- (1) M. Sato-Ilic, Principal component analysis for mixed high-dimension low-sample size data based on fuzzy-cluster scale, 16th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics and 17th International Conference on Computational and Financial Econometrics, p. 18, 2023
- (2) M. Sato-Ilic, P. Ilic, Fuzzy Cluster-Scaled Principal Component Analysis for Mixed Data and Its Application of Educational Effect based on Device Selection, 27th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, 2023
- (3) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Hierarchical Support Vector Machine based Classifier for Autocoding, 27th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, 2023

一般研究発表：

- (4) M. Sato-Ilic, Fuzzy Cluster-Scaled Principal Component Analysis for High-Dimension Low-Sample Data, The 24th International Conference on Computational Statistics, p. A0236, 2023
- (5) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Autocoding Methods for Family Income and Expenditure Surveys, Conference on New Techniques and Technologies for Official Statistics, 2023
- (6) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Difference on Evaluation Scores Considering Image Descriptions for Autocoding, The Annual Conference on the Use of R in Official Statistics (11th International Conference: uRos2023), 2023

- (7) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Improvement of Training Data for Autocoding on "The National Survey of Family Income, Consumption and Wealth" and "The Family Income and Expenditure Survey", 日本分類学会第 42 回大会, 2023
- (8) 佐藤美佳, 収支項目分類符号の自動付与における分類手法に関する研究, 第 15 回共同研究報告会・第 189 回研究報告会 (総務省 統計研究研修所主催)

◆ その他 :

Long Service Award 受賞, M. Sato-Ilic, For Keynote presentations and Evolving & Chairing Invited Sessions in the field of Intelligent systems in the KES International Conferences (UK), Athens, Greece, 2023 年 9 月 8 日

3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献 :

- ・全学ハラスメント相談員
- ・全学アドミッションセンター専門委員
- ・全学早期修了プログラム運営委員会委員
- ・システム情報工学研究群早期修了プログラム実施委員会副委員長
- ・システム情報工学研究群入試実施委員会委員

◆ 学位プログラム・学群・学類組織の業務への貢献 :

- ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム入試委員会委員長
- ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム達成度評価チェック委員会委員長
- ・社会工学類学生担当教員
- ・社会工学類入試実施委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ・総務省統計研究研修所客員教授
- ・公認会計士試験出題委員 (内閣府任命・金融庁)
- ・第 25 期日本学術会議連携会員
- ・文部科学省統計エキスパート人材育成プロジェクト推進委員会委員

海外業務 :

- ・国際統計協会選出会員 : International Statistical Institute Elected Member
- ・国際統計協会女性委員会日本国代表 : Country Representative for International Statistical Institute (ISI) Committee for Women in Statistics
- ・IEEE 計算知能学会ファジィシステム技術委員会副委員長 : Vice Chair for Fuzzy Systems Technical Committee of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・Special Session Chair (特別セッション委員長), the IEEE World Congress on Computational Intelligence (WCCI) 2024

- Senior Associate Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- Associate Editor of Fuzzy Sets and Systems, Elsevier, Netherlands
- Senior Associate Editor of Fuzzy Sets and Systems, Elsevier, Netherlands
- Associate Editor of Japanese Journal of Statistics and Data Science, Japan
- Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)
- Member of Editorial Board of Journal of Advances in Artificial Intelligence and Machine Learning, SciVision Publishers LLC, United States
- IEEE Senior Member
- Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- Contribution for Pillars survey on European Commission

その他:

- 日本分類学会幹事 (渉外担当)
- 日本分類学会評議員
- 日本分類学会「データ分析の理論と応用」編集委員会委員
- 統計関連学会連合事業委員会委員
- 統計関連学会連合 JJSD 運営委員会委員
- 種々の日本学術振興会科学研究費助成事業審査委員業務
- 学術論文の査読や国際会議座長等多数

氏名	岡田 幸彦	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任 スポーツウェルネス学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ビジネスインテリジェンス、会計情報科学、サービス工学、ソーシャル・データサイエンス、経営学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- ・学類：会計と経営/社会工学演習/経営学/マネジメント演習
- ・大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/技術経営（サービス工学学位プログラム）/サービス工学特別講義Ⅳ（サービス工学学位プログラム）/ブロックチェーン技術と地域未来創成（社会工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講1（スポーツウェルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講2（スポーツウェルネス学位プログラム）

◆ 指導学生数：

- ・社会工学類 6人/サービス工学学位プログラム（修士）16人/社会工学学位プログラム（修士）1人/社会工学学位プログラム（博士）3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・筑波大学人工知能科学センター 人工知能基盤研究部門 サービス工学分野長
- ・統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター 客員教授
- ・放送大学 客員教授「サービスサイエンス」
- ・科研費基盤B アカウンティング・インフォマティクス（会計情報科学）の基盤研究

◆ 主な著書・論文等： 著書0件、ジャーナル査読論文8件、国際会議査読論文6件

1. Impact of subjective well-being on physical frailty in middle-aged and elderly Japanese with high social isolation, Tanabe Kai; Sugawara Yuki; Sakurai Eiichi; Motomura Yoichi; Yukihiko Okada; Akiko Tsukao; Shinya Kuno, PloS one/19(2), 2024-02.
2. Estimating bridge natural frequencies based on modal analysis of vehicle-bridge synchronized vibration data, Mudahemuka Eugene; Miyagi M.; Shin Ryota; Kaneko Naoki; Okada Yukihiko; Yamamoto Kyosuke, Sensors/24(4), 2024-02.
3. Knowledge sharing among coaches: expert power and social cognitive theory perspectives,

- Funasaki Kohei; Inoue Yuhei; Takahashi Yoshio; Shirai Katsuyoshi; Okada Yukihiro, European Sport Management Quarterly/Epub/pp.1-20, 2024-01.
4. Examining algorithmic fairness for first-term college grade prediction models relying on pre-matriculation data, Yanagiura Takeshi; Yano Shiho; Kihira Masateru; Okada Yukihiro, Journal of Educational Data Mining/15(3)/pp.1-25, 2023-12.
 5. Method for creating privacy-preserving information using Probabilistic Latent Semantic Analysis, Sugawara Yuki; Sakurai Eiichi; Motomura Yoichi; Okada Yukihiro; Tsukao Akiko; Kuno Shinya, Proceedings of 2023 IEEE International Conference on Big Data (BigData)/pp.2726-2734, 2023-12.
 6. Does double-entry bookkeeping information generated using node2vec contribute to forecasting future performance?, Motai Ryoki; Kamebuchi Masato; Watanabe Sora; Matsumoto Ryo; Okada Yukihiro, Proceedings of 2023 IEEE International Conference on Big Data (BigData)/pp.3194-3201, 2023-12.
 7. Data-driven approaches to detecting misdeliveries in truck logistics using GPS data, Hidaka Ayumu; Shin Ryota; Tsuchiya Atsushi; Nakabayashi Norihiko; Okada Yukihiro, Proceedings of 2023 IEEE International Conference on Big Data (BigData)/pp.1922-1927, 2023-12.
 8. Whispering salesperson: Perceptual illusion of interpersonal distance and ventriloquism effect in service of virtual environment by use of whisper voice, Yabutani Mizuki; Yamazaki Azusa; Wakatsuki Naoto; Okada Yukihiro; Zempo Keiichi, Proceeding of the 29th ACM Symposium on Virtual Reality Software and Technology (VRST '23), 2023-10.
 9. Effects of symmetrical avatar arm movements on the sense of ownership of both hands inverted in a mirror, Fujita Toko; Horii Moeki; Mailloux Luis David Torres; Miyagi Masatatsu; Okada Yukihiro; Zempo Keiichi, Proceeding of the 29th ACM Symposium on Virtual Reality Software and Technology (VRST '23), 2023-10.
 10. Effect of voice imitation using voice conversion by avatar on customer service in virtual environments, Okano Hiroyuki; Okada Yukihiro; Wakatsuki Naoto; Zempo Keiichi, Proceeding of the 29th ACM Symposium on Virtual Reality Software and Technology (VRST '23), 2023-10.
 11. Non-readily identifiable data collaboration analysis for multiple datasets including personal information, Imakura Akira; Sakurai Tetsuya; Okada Yukihiro et al., Information Fusion/98, 2023-10.
 12. Another use of SMOTE for interpretable data collaboration analysis, Imakura Akira; Kihira Masateru; Okada Yukihiro; Sakurai Tetsuya, Expert Systems with Applications/228, 2023-10.
 13. Parametric study of the vehicle-bridge interaction system identification method, Shin Ryota; Okada Yukihiro; Yamamoto Kyosuke, Life-Cycle of Civil Engineering Systems/pp.3539-3546, 2023-07.

- 1 4. Data collaboration analysis in predicting diabetes from a small amount of health checkup data, Go Uchitachimoto; Noriyoshi Sukegawa; Masayuki Kojima; Rina Kagawa; Takashi Oyama; Yukihiko Okada; Akira Imakura; Tetsuya Sakurai, Scientific Reports/13(1), 2023-07.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
筑波大学高等研究院企画メンバー
教育イニシアティブ機構会議 構成員
教学マネジメント室 室員
理工学群広報委員会 委員
人工知能科学センター運営委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類広報委員会 委員長
大学院社会工学専攻広報委員会 委員長
教学マネジメント委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - ・東京都文書生成 AI ガイドライン 有識者
 - ・公益財団法人清国奨学会 理事（工学系学生への奨学事業、非常勤、無報酬）
 - ・水戸信用金庫 理事（非常勤、報酬有、月 10.8 万円（旅費等込））
 - ・サービス学会 理事

氏名	奥島 真一郎	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	国際総合学類 専任 社会工学類 兼任		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、環境倫理		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学Ⅳ（専門導入科目）/国際学Ⅳチュートリアル（社会・国際学群）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）

大学院 経済・政策分析（社会工学学位プログラム）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 6人/社会工学学位プログラム 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費基盤研究（B）「低炭素化・エネルギー転換の包摂性評価」（代表）

鹿島学術振興財団研究者海外派遣（長期）「包摂的な低炭素化・エネルギー転換に関する研究」（代表）

科研費基盤研究（B）「高レベル放射性廃棄物の最終処分に対する社会的合意形成に関する社会科学的総合研究」（分担）

科研費基盤研究（C）「気候変動危機下の経済システム論」（分担）

◆ 著書・論文等：

“Measuring energy sufficiency: a state of being neither in energy poverty nor energy extravagance,” *Applied Energy*, 354, 122161, 2024.

“Double energy vulnerability in Japan: a first assessment,” *USAEE/IAEE Working Paper*, No. 23-607. December 2023（国際共著）.

“What can be done with one tonne of CO2 emissions?: Reconsidering fair carbon emissions for households in relation to the use of domestic energy services,”

USAEE/IAEE Working Paper, No. 23-587. June 2023.

◆ 学会発表等：

“Energy poor need more energy, but do they need more carbon? Measuring basic carbon needs (subsistence emissions) regarding domestic energy services use in Japan,”
ECCM Seminar, Sustainability Research Institute, University of Leeds, United Kingdom,
July 12, 2023.

◆ その他：

Outstanding Reviewer Award 2023, *Energy Research & Social Sciences* (Elsevier).

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

国際総合学類三年生クラス担任

国際総合学類シス情 TA 担当委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

Research Fellow, Asian Energy Studies Centre, Hong Kong Baptist University

氏名	繁野麻衣子	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化, ネットワーク理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／情報リテラシー（演習）／社会と最適化／経営工学概論

大学院 応用最適化／離散数理/地域未来創生概論

◆ 指導学生数：

社会工学類 6人

社会工学学位プログラム(後期) 8人

社会工学学位プログラム(前期) 13人 サービス工学学位プログラム 12人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実用性に向けた説明力のある手法開発」(代表)

科学研究費 基盤研究 (B) 「リーマン多様体上の制約付き最適化問題に対する汎用アルゴリズムの理論と実装」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B) 「デジタル時代の施設配置の理論—自己完結, 個人情報保護, 民主的決定による非効率性—」(分担)

共同研究 株式会社 READ 「情報基盤確立」及び「人事システム」推進に対する研究」

共同研究 株式会社サイゼリヤ 「外食産業における DX に向けた取り組み」

◆ 著書・論文等：

H. Hashikami, Y. Li, R. Kobayashi, M. Shigeno, Challenges of commuter carpooling with adapting to Japanese customs and regulations: A pilot study, *Transportation Research Interdisciplinary Perspectives*, 22, 100945, 2023

橋上秀宜, 繁野麻衣子 「数理最適化を用いたサービス工学の事例—通勤カープールの実証実験—」, *オペレーションズ・リサーチ* 68, 161-168, 2023.

◆ 学会発表等：

Yu Li, Kazumasa Ogawa, Hidenobu Hashikami, Ryotaro Kobayashi, Maiko Shigeno, Comparison of Carpooling Models for Fairness in Detour Time under Equivalent Amount of Cooperation Allowance, International symposium on scheduling 2023

Risako Wada, Minami Ohara, Tetsuya Tsuboi, Keisuke Kimura, Narito Tanaka, Maiko Shigeno, Extraction of Cooking Scheduling Rules in a Restaurant, International symposium on scheduling 2023

繁野麻衣子, カクタスグラフ上の連続被覆立地問題, 京都大学数理解析研究所 共同研究 (公開型) 数理最適化: 理論と実践, 2023

Fei Xue, Haijunfu Ma, Maiko Shigeno, Round-robin tournament scheduling considering fairness in breaks and travel distance, 京都大学数理解析研究所 共同研究 (公開型) 数理最適化: 理論と実践, 2023

Xin Yang, Yu Li, Wenhui Ai, Maiko Shigeno, Four-level knowledge graph contrastive learning structure for smart-phone application recommendation. 2023 International Wireless Communications and Mobile Computing (IWCMC), 1340-1345, 2023

Wushuang Wang, Yu Li, Hidenobu Hashikami, Maiko Shigeno, A Discrete JAYA Algorithm for Long-Term Carpooling Problem, 12th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE) , 1075-1076, 2023

半谷 圭汰朗, 王家鼎, 呉 謙, 繁野 麻衣子, 光通信ネットワークにおけるスプリットスペクトルを取り入れた資源割当モデルの提案, スケジューリングシンポジウム 2023

濱田 まき穂, 薛 菲, 繁野 麻衣子, 1 グループ 2 チームのブレイク制約のある総当たり戦に関する一考察, スケジューリングシンポジウム 2023

Wang Wushuang, Xue Fei, Mitsui Toshiki, Shang Zhiyuan, Shigeno Maiko, Carry-over Effect Values Minimization under Circle Method and Binary Factorization Based on Jaya Algorithm, 8th International Conference on Control Engineering and Artificial Intelligence, 44-51, 2024

Tabata Naoya, Itohiya Rin, Narita Hideshi, Shigeno Maiko, A New Approach to

Market Segmentation Based on 2-Dimensional Tables, Proceedings of the 2024 10th International Conference on Computing and Data Engineering, 8-13, 2024

Naoya Tabata, Maiko Shigeno, Application of data anonymization to smartphone apps usage logs, 9th international conference on big data analytics, 2024

橋爪朝子, 繁野麻衣子, 並列機械スケジューリング問題における多様な解の生成, オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2024

- ◆ その他：
なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学学群教育課程委員, 系戦略室
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院 地域未来創生教育コース／学類 カリキュラム委員・マッチング委員・クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
数理モデル高大連携
スケジューリング学会理事
International Symposium on Scheduling 2023 実行委員
オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会実行委員
京都大学数理解析研究所 共同研究（公開型）代表

氏名	鈴木 勉	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担)		
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担), サービス工学学位プログラム (分担)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	立地科学, 都市空間構造, 持続可能型都市形態, 都市リスク分析, 地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

理工学群 数学リテラシー 1

社会工学類 都市数理／都市計画演習／都市解析

博士前期課程 リスク・レジリエンス工学概論／都市・地域解析学／地域データ解析／レジリエント都市計画演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／リスク・レジリエンス工学学位 P 4人／リスク工学専攻 1人／社会工学学位 P 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

大林財団研究助成 「都市拠点の人流パターン解析と市街地構造変容のモデル分析研究」

日本学術振興会科学研究費 (基盤研究(B)) 「デジタル時代の施設配置の理論－自己完結, 個人情報保護, 民主的決定による非効率性－」 (分担)

日本学術振興会受託研究 学術研究動向等に関する調査研究 「建築計画および都市計画関連分野 (主に都市計画分野) に関する学術研究動向－都市計画分野とその周辺分野における新たな潮流と展開－」

東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「位置情報ビッグデータを活用した人の移動パターンと都市施設・土地利用・交通網の関係性の分析」

トヨタ自動車共同研究 「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」 (分担)

関東鉄道株式会社 共同研究 「つちうら MaaS 実証実験に関する研究」 (分担)

◆ 著書・論文等：

一井直人・松原千波・鈴木勉・大澤義明 (2023) 人流挙動に応じた多目的立地とアクセシビリティ格差, 応用地域学研究, Vol.27, pp.17-27, 2023.

Yumeng Huang, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki (2024): Preference-based jogging

route selection in Downtown Tokyo, *Cities & Health*, 2024.

◆ 学会発表等：

菅俣直也・大澤義明・鈴木勉，地域起点の持続可能なエネルギーテック，都市の OR スプリングセミナー2023，東京大学，2023年4月29日。

北口立大・巖先鏞・鈴木勉，鉄道駅周辺の鉄道による分断度の計測，都市の OR スプリングセミナー2023，東京大学，2023年4月29日。

神崎達也・巖先鏞・鈴木勉，世界の都市の規模・密度別人口分布の比較，都市の OR スプリングセミナー2023，東京大学，2023年4月29日。

Yuheng Liu・巖先鏞・鈴木勉，Effects of Connected Vehicles Speed Guidance on Travel Time and Fuel Consumption in Arterial Road，都市の OR スプリングセミナー2023，東京大学，2023年4月29日。

竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉，用途別・時間帯別の街区レベル発生集中交通特性，都市の OR サマーセミナー2023，筑波大学，2023年8月5日。

早坂遼・巖先鏞・鈴木勉，安定マッチングによる学校割当，都市の OR サマーセミナー2023，筑波大学，2023年8月5日。

Daisuke Hasegawa, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki, Determining the Transit Catchment Area and Distance Distribution, presented at the 18th International Conference on Computational Urban Planning and Urban Management (CUPUM 2023), Montreal, Canada, June 20-22, 2023.

Eda Tsujimoto, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki, Road Detection for Post-Disaster Using Twitter Image Data and Deep Learning Considering Earthquake, presented at the 18th International Conference on Computational Urban Planning and Urban Management (CUPUM 2023), Montreal, Canada, June 20-22, 2023.

早坂遼・神崎達也・巖先鏞・鈴木勉，通学距離最小化と安定マッチングによる学校割当比較，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，2023。

竹内真雄・早坂遼・巖先鏞・鈴木勉，人流データによる街区レベル時間帯別発生集中の時空間分布，地理情報システム学会講演論文集，2023。（ポスター）

早坂遼・竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉，建物主要用途・トリップチェーンに着目した人流データによる街区間トリップ特性，地理情報システム学会講演論文集，2023。（ポスター）

神崎達也・巖先鏞・鈴木勉，アジア地域の都市における鉄道・道路と人口分布構造，地理情報システム学会講演論文集，2023。（ポスター）

Liu Liling, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki, Exploring Separation Strategies for Car-Bicycle Integration, 地理情報システム学会講演論文集，2023。

Liu Yuheng, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki, Effect of Speed Control for Travel Time and Emission Reduction in Connected Vehicle Environment, 地理情報システム学会講演論文集，2023。

長谷川大輔・巖先鏞・鈴木勉, 駅の徒歩圏と距離分布の測定, 2023年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2023), 2023.

飛松涼太・巖先鏞・鈴木勉, 東京区部における町丁目別年齢構成の類型遷移, 2023年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2023), 2023.

Liu Yuheng, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki, Evaluating impacts of signal control on vehicle speed guidance under connected vehicle environment, 第21回 ITS シンポジウム 2023, 富山大学, 2023年12月7-8日.

飛松涼太・巖先鏞・鈴木勉, 年齢構成の偏りから見た地区別人口推移, 都市のORワークショップ 2023, 南山大学, 2023年12月16-17日.

竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉, 東京区部の商業集積地における発生集中・移動特性, 都市のORワークショップ 2023, 南山大学, 2023年12月16-17日.

竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉, GPSデータによる東京区部商業集積地の滞在移動特性比較, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, 2024.

飛松涼太・巖先鏞・鈴木勉, 全国小地域の年齢構成遷移と人口動態, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, 2024.

欧陽君顔・鈴木勉・大澤義明, 同心円モデルと電柱空間分布, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, 2024.

◆ その他:

3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:

社会工学類カリキュラム委員会委員

◆ 学位プログラム組織の業務への貢献(委員会等):

リスク・レジリエンス工学学位プログラムカリキュラム委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

常総市公共交通活性化協議会 会長

神栖市地域公共交通会議委員

筑西市地域公共交通会議委員

板東市地域公共交通会議委員

八千代町地域公共交通会議委員

鉾田市地域公共交通会議委員

つくばみらい市学区審議会 会長

土浦市消防本部 土浦市消防署庁舎整備検討委員会 会長

つちうら MaaS (土浦市新モビリティサービス) 推進協議会委員

氏名	谷口綾子	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学 社会工学	専任 兼任	
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学 社会工学	専任 兼任	
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市交通計画, 態度行動変容研究, リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画演習, 都市計画インターンシップ, 交通計画, 都市計画入門, 情報リテラシー演習, BPGI 地球規模課題発見, TSUKUBA ポスト・コロナ学

【大学院前期課程】リスク・コミュニケーション, レジリエント都市計画実習, リスク/レジリエンス工学グループ PBL 演習, リスク工学特別演習, リスク工学基礎, リスクマネジメント序論,

◆ 指導学生数：リスク・レジリエンス学位 P6 名, 社会工学学位 P_M2 名, 社会工学類 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費(挑戦的開拓)(代表) 「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容の包括的理解に向けた学際研究
2. 科学技術振興機構 社会技術研究開発 RISTEX, 技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI)への包括的実線研究開発プログラム, 「ELSI を踏まえた自動運転技術の現場に即した社会実装手法の構築」(分担代表)
3. 日本損害保険協会 自賠償運用益拠出事業研究助成金(代表) 「高齢運転者向け認知機能検査の負の効用とその緩和策の検討」

◆ 著書・論文等：

■ 査読付き原著論文

- (1) 溝口哲平, 谷口綾子：「移動中の活動の主観的意味」と移動時間短縮意向との関連に関する基礎分析, 土木学会論文集 D3, 79 巻, 3 号, 論文 ID: 22-00081, 2023. DOI <https://doi.org/10.2208/jscej.22-00081>
- (2) 森隆慶, 荒木雅弘, パラディ・ジアンカルロス, 高見淳史, 谷口綾子：新型コロナウイルス蔓延下での個人の外出自粛行動に対する社会的影響に関する研究—モバイル空間統計を活用して—, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 78 巻 5 号, pp.I_515-I_528, 2023. DOI https://doi.org/10.2208/jscejpm.78.5_I_515

- (3) 渡邊芳樹, 谷口綾子, 張詠皓: 高齢ドライバー向け認知機能検査の結果通知書におけるメタメッセージ緩和策の効果に関する研究, 交通工学論文集, 第 9 巻第 3 号, pp.24-36, 2023. https://doi.org/10.14954/jste.9.3_24
- (4) Ayako TANIGUCHI, Marcus ENOCH, Athanasios THEOFILATOS, Petros IEROMONACHOU (2022) Understanding acceptance of Autonomous Vehicles in Japan, UK, and Germany, Urban, Planning and Transport Research (Taylor & Francis). <https://doi.org/10.1080/21650020.2022.2135590>
- (5) 奥井良子, 白水真理子, 安藤里恵, 間瀬由記, 中原慎二, 谷口綾子: 健康教育イベントへの参加が身体活動および健康関連 QOL に与える影響, 日本看護科学会誌, JANS-21-193.R1 日本看護科学会誌, 第 42 巻, pp. 81-90, 2022.

■査読付きプロシーディングス (なし)

■著書:

- (1) モビリティ・イノベーションの社会的受容 技術から人へ, 人から技術へ, 上出寛子編著, 2 章「自動運転システムの社会的受容」担当, コロナ社, 2022 年 4 月. ISBN:9784762831850
- (2) ポスト・コロナ学 ーパンデミックと社会の変化・連続性、そして未来, 秋山肇編, 8 章「蔓延初期の日本・英国・ドイツ市民の行動変容」担当, 明石書店, 2022 年 4 月. ISBN 9784750353746

◆ 学会発表等:

- (1) 谷口綾子, 飯塚友也, 溝口哲平, 岩田剛弥: 自動運転車普及過渡期における手動運転車の交通ルール違反对策に向けた意識分析, 第 66 回土木計画学研究・講演集 (CD-ROM), 2022.
- (2) 飯塚友也, 岩田剛弥, 溝口哲平, 谷口綾子: 自動運転車の「事故回避を企図した交通ルール違反」に対する一般市民と専門家の評価, 第 66 回土木計画学研究・講演集 (CD-ROM), 2022.
- (3) 後藤りえ, 谷口綾子, 樋崎恵一, 本間雄太: 海外都市の専門家が懸念する電動キックボードシェアリング導入・運用の課題と助言, 第 66 回土木計画学研究・講演集 (CD-ROM), 2022.
- (4) 小菅英恵, 谷口綾子, 佐々木邦明: 運転免許返納者と更新者の生活・運転・事故の意識に関する調査研究: 茨城県の高齢者を対象として, 第 66 回土木計画学研究・講演集 (CD-ROM), 2022.
- (5) 渡邊芳樹, 谷口綾子, 張詠皓: 高齢ドライバー向け認知機能検査の結果通知書におけるメタメッセージ受取の規定因とその緩和策の効果分析, 第 66 回土木計画学研究・

講演集(CD-ROM), 2022.

- (6) 岩田剛弥, 谷口綾子, 溝口哲平: 自動運転バスの利用意向の要因分析 ―乗務員有無・乗務員の保有免許に着目して―, 第 65 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.
- (7) 溝口哲平, 谷口綾子: 「移動中の活動の主観的意味」の出現パターンと活動種類の関係, 第 65 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.

◆ その他:(論説)

- (1)産経新聞 シンポジウム 過去と未来の首都圏道路ネットワークと道路の機能強化: つながりながら人々の生活に寄り添う道路ネットワークは新時代へ: パネリスト, 2023 年 3 月 10 日産経新聞朝刊 10 面.
- (2)運輸と経済 特集: こどもと交通 座談会「こどもと交通の未来を考える」登壇者, 運輸と経済 2023 年 3 月号.
- (3)運輸と経済 特集: こどもと交通 「運輸と経済フォーラム 公共交通の未来を育むー交通事業者「こども」戦略」パネリスト, 運輸と経済 2023 年 3 月号.
- (4)後藤りえ, 谷口綾子, 樋崎恵一, 中嶋一雄: 電動キックボードシェアリング導入・運用に対する海外都市専門家の評価と課題, 交通工学(機関誌), Vol.58, No.2, pp.41-44, 2023.
- (5)谷口綾子: 新たなモビリティの社会的受容と留意点 ―自動運転システムと電動キックボード, 北の交差点(一般財団法人 北海道道路管理技術センター), 特集_新しいモビリティ_基調レポート, vol.40, pp2-7, 2022. <http://rmec.or.jp/activity/back-number/>
- (6)浅見知秀, 鳥海佑介, 谷口綾子: 地方都市でタクシーはバスを補完することができるか? ~市内バス全線定期券保有者へのタクシー初乗無料券配布実験の実証分析~, 交通工学第 57 巻 2 号(2022 年 4 月号)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
全学リスク管理室 新型コロナウイルス感染症リスク対応チーム
キャンパス交通システムの利用促進
筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入, マネジメントと利用促進
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):
リスク・レジリエンス工学学位 P 達成度評価委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 講演・パネルディスカッション
- (1) JICA 研修会 都市交通総合 講師「Mobility Management: essence and key points」
2023 年 2 月 9 日

- (2) JICA 研修会 都市鉄道 講師「Mobility Management: essence and key points」, 交通すごろくの実施, コーディネート, 2023年1月30日
- (3) 宇都宮市3229(身につく)勉強会 講師「モビリティ・マネジメントのココローモビリティ・マネジメントによる市民の態度・行動変容に向けた政策立案への示唆」2022年12月20日
- (4) リスク・レジリエンス・コンソーシアム ピッチ会 話題提供「モビリティ・マネジメントー態度・行動変容のための説得的コミュニケーション技術の都市交通問題への応用」 2022年11月9日
- (5) 国土交通大学校 道路計画(機能・活用) 講師 「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2022年11月2日
- (6) 東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 高校生対象:自動運転バス試乗会+研究環境見学+公園・ワークショップ 自動運転バスから,未来の柏はどう見える? 講師「今の自分」と「みんなの将来」:交通すごろくで社会問題を考える」2022年10月30日
- (7) 交通事故総合分析センター(イタルダ)研究発表会 基調講演「「自動化するクルマ」の社会的受容」2022年10月21日
- (8) 国土交通省 九州地方整備局 都市交通計画全国会議 基調講演「モビリティ・マネジメントのココロ」 2022年10月18日
- (9) 交通エコロジーモビリティ財団 第10回 地域の交通環境対策推進者養成研修会(愛媛県松山市) 講師 2022年9月28日~30日
- (10) 地域公共交通総合研究所 地域モビリティの再構築シンポジウム 話題提供「日本のインフラ体力診断 地域公共交通WG」 2022年9月2日
- (11) 日本心理学会 会員公募シンポジウム [SS-023]人生100年時代の車の運転 ~多くの人々の幸福な交通社会を目指して, 話題提供「高齢ドライバーの免許保有・返納行動と意識との関連分析-主観的健康観・幸福感に着目して-」2022年9月-10月公開.
- (12) 自動運転倫理ガイドライン研究会 第1回シンポジウム 自動運転×倫理 公開シンポジウム:パネリスト「「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容ーこれまでの研究成果からの示唆」 2022年6月17日
- (13) 土木計画学 革新的技術の合意形成小委員会 話題提供「「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容」 2022年5月20日
- (14) 国土交通省 関東運輸局 公共交通シンポジウム 2022 ウィズコロナ時代における公共交通の姿~感染防止対策とお出かけ促進に向けた新しいスタイルの模索~ 基調講演 「モビリティ・マネジメントのココロ」, パネルディスカッションのモデレーター, 2022年4月25日
- (15) JCoMaaS トークイベント MaaSの部屋 講師 「「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容」, 2022年4月13日
- (16) 東京大学 東大まちづくり大学院イブニングセミナー 健康な都市をデザインする 講師 「まち・交通行動と健康:いくつかのエビデンス紹介」, 2022年4月11日

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- (1) 首都高速道路株式会社_事業評価監視委員会 委員 2023年2月～
- (2) 国土交通省 道路局_次世代のITS検討会 委員 2023年2月～
- (3) 国土交通省 鉄道局_鉄道利用における混雑回避のあり方に関する検討会 委員
2022年12月～
- (4) 国土交通省 関東地方整備局 社会資本整備審議会 道路分科会関東地方小委員会
委員 2022年～
- (5) 内閣府_重要土地等調査法_土地等利用状況審議会 2022年6月～
- (6) 埼玉県庁 国土利用計画審議会 委員 2022年6月～
- (7) 国土交通省 交通政策審議会 陸上交通分科会鉄道部会 鉄道運賃・料金制度のあり
方に関する小委員会 委員 2022年2月～
- (8) 目黒区役所都市計画審議会都市計画マスタープラン検討委員会 委員 2021年8月～
- (9) 東京都庁 臨海部 地域公共交通会議 委員 2021年8月～
- (10) 日本学術会議 課題別委員会「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デ
ザイン検討委員会 自動運転企画分科会 自動運転と共創する未来社会検討小委員
会」(25期) 委員 2021年7月～
- (11) 国土交通省 関東地方整備局 首都圏道路ネットワークの整備効果検討会 2020年
12月～
- (12) 運輸総合研究所 評議員 2020年7月～
- (13) 守谷市 地域公共交通活性化協議会 委員 2020年4月～
- (14) 国土交通省 社会資本整備審議会 本委員 2020年3月～
- (15) 国土交通省 社会資本整備審議会 環境部会 委員 2020年3月～
- (16) 国土交通省 社会資本整備審議会 計画部会 委員 2020年3月～
- (17) 国土交通省 社会資本整備審議会 道路分科会 委員 2020年3月～
- (18) 国土交通省 社会資本整備審議会 技術部会 委員 2020年3月～
- (19) 藤沢市都市計画審議会 委員 2019年8月～
- (20) 国土交通省 青森国道事務所・青森県庁 奥入瀬溪流・十和田湖周辺交通マネジメン
ト検討委員会 委員 2017年12月～
- (21) 国土交通省総合政策局 エコ通勤等承認・普及促進委員会 委員 2017年8月～
- (22) 防衛省 防衛施設整備に関する有識者会議委員 2017年4月～
- (23) 国土交通省関東地方整備局 社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会 臨
時委員 2016年11月～
- (24) 国土交通省 国立研究開発法人審議会土木研究所部会 委員 2015年7月～
- (25) 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員

2014年9月～

- (26) 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員 2014年6月～
- (27) 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012年1月～2022年3月
- (28) 静岡県 道路技術審議会 委員 2012年10月～
- (29) 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 2009年1月～
- (30) 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008年10月～
- (31) 交通エコロジー・モビリティ財団 EST普及推進委員会 委員 2005年～

以上

氏名	谷口 守	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域計画、交通計画、環境計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画演習／都市計画原論／地球規模課題基礎演習A－II
／ファーストイヤーセミナー／学問への誘い

大学院前期課程 都市と環境／公共インフラ計画／美しい国土づくりへの挑戦 (I)、(II)
／モビリティ・イノベーションの社会応用／地域未来創生概論 I、II

◆ 指導学生数：

社会工学類 5人／社会工学専攻 (博士後期) 3人／社会工学専攻 (博士前期) 10人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「セントラルドグマとしての『都市退化マネジメント』の
進化促進」(代表)

共同研究 日本航空 (株)「航空移動の価値研究」(分担)

共同研究 トヨタ自動車 (株)「モビリティ・イノベーションの社会応用と
未来社会工学研究 フェーズVI」(分担)

寄付金 (一財)日本国土開発未来研究財団「相反する『分散』『コンパクト』概念を
最適融合する新たな都市・国土構造の提案」(代表)

令和5年度リサーチユニット強化事業 「コンパクトシティ」(代表)

◆ 著書・論文等：

◆ 著書：

谷口守・武田陸・香月秀仁・石橋澄子：人々の生活行動と脱炭素、－COVID-19 および
シェアリングによる影響分析から－、大澤義明編著、川島宏一・笹林徹・鈴木勉・谷口
守・藤川昌樹・村上暁信・吉瀬章子著：スマートモビリティ時代の地域とクルマ、－社
会工学アプローチによる課題解決－、第5章、pp.102-116、学芸出版社、2023.9.

谷口守：入門都市計画 第二版、森北出版、2023.11.

◆ 査読付き論文：

清水宏樹・武田陸・川合春平・谷口守：外出行動に「身体的な困難さ」が及ぼす影響、－東京都市圏パーソントリップ調査に基づく実態と課題－、土木学会論文集 D3、Vol.78、No.5、I_417-I_426、(土木計画学研究・論文集、Vol.40)、2023.5.

石橋澄子・安藤慎悟・谷口守：COVID-19 流行下における就労者の交通行動に伴う身体活動量変化の要因分析、－ポストコロナの健康まちづくりへの示唆－、土木学会論文集 D3、Vol.78、No.5、I_405-I_416、(土木計画学研究・論文集、Vol.40)、2023.5.

大平航己・石橋澄子・谷口守：地域における神事継承の実態とその要因、－茨城県を対象とした 30 年前との比較から－、土木学会論文集 D3、Vol.78、No.5、I_229-I_239、(土木計画学研究・論文集、Vol.40)、2023.5.

武田陸・室岡太一・谷口守：コロナ転居者のメンタリティの解明、－転居先に何を求めたのか－、土木学会論文集 D3、Vol.78、No.5、I_241-I_251、(土木計画学研究・論文集、Vol.40)、2023.5.

安藤慎悟・Golubchenko STANISLAVA・久米山幹太・谷口守：訪問型関係人口拡大のための無関与者の分析、－その人物像を探る－、土木学会論文集(政策と実践)、Vol.79、No.10、ID: 22-00283、2023.10.

Stanislava Golubchenko, Sumiko Ishibashi, Takeshi So and Mamoru Taniguchi: Perception of the urban environment through residential satisfaction and sentiments about a city, Using the city typology by urban aging problems, Urban and Regional Planning Review, 10, 326-350, 2023.5.

石橋澄子・川合春平・谷口守：COVID-19 流行を通じた自動車 CO₂ 排出量変化、－流行下 5 時点における個人の生活行動データを用いた推計－、土木学会論文集、Vol.79、No.26、ID:23-26001、2024.3.

川合春平・石橋澄子・谷口守：自動車に要する金銭的コストの全国網羅的把握、－一日あたり利用・保有コストの明示－、都市計画学会論文集、Vol.58、No3. pp.1608-1614、2023.10. [年間優秀論文賞受賞]

室岡太一・久米山幹太・谷口守：広域に見る拠点階層別到達圏人口、－公平性に配慮した都市構造を見据えて－、都市計画論文集、Vol.58、No3、pp.1501-1507、2023.10.

小林泰輝・室岡太一・谷口守：フレキシブルオフィスの利用・利用意向の要因分析、都市計画論文集、Vol.58、No.3、pp.899-905、2023.10.

稲垣航大・小林泰輝・谷口守：コンパクトシティ政策に対する市民の賛否とその要因、－自称認知度の高い市民に着目して－、都市計画論文集、Vol.58、No.3、p. 906-912、2023.10.

稲垣航大・久米山幹太・石橋澄子・谷口守：コンパクトシティ政策に対する市民の認知、－誤認の防止と適切な認知に向けて－、土木学会論文集 D3(土木計画学)、vol.79、No.10、

ID:23-00079、2023.10.

Sumiko Ishibashi, Taiki Kobayashi and Mamoru Taniguchi : Does emphasis change in transportation mode choice affect workers' actual mode choice? Implications from Japan in the COVID-19 era. *Transport Policy*, 146, 343–355、2023.12.

◆ 論説等 :

谷口守 : 折り返し点に立つ都市計画、一都市計画基本問題小委員会中間とりまとめに寄せて一、[特集]都市計画基本問題小委員会 中間とりまとめ、区画整理、2023年8月号、pp.6-10、2023.8.

谷口守 : 郊外都市の発展、まずはインフラ投資が大切、立飛総研レポート、Vol.8、pp.63-68、2023.9.

谷口守 : コンパクトシティとは?、SUUMO、基礎知識・情報・ポイント、2023.10.

谷口守 : 世界都市に向けて、GX・生物多様性戦略、FORE、Vol.129、pp.1-5、2023.11.

谷口守 : みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト、有識者インタビュー、pp.58-59、2024.2.

谷口守 : 筑波研究学園都市と TUTC ライブラリーのあゆみを振り返って、TUTC Library、No.50、pp.4-7、一般財団法人つくば都市交通センター、2024.3.

◆ 学会発表等 :

◆ 口頭発表 :

GOLUBCHENKO Stanislava・安藤慎悟・宗健・谷口守 : Understanding the influence of urban aging on happiness and residential satisfaction、土木計画学研究・講演集、Vol.67、P01-40、2023.5.

室岡太一・松場拓海・川合春平・谷口守 : 広域からみる拠点候補地の横断的評価、一滞留人口・施設集積の経年的変化一、土木計画学研究・講演集、Vol.67、P01-6、2023.5. [優秀ポスター賞受賞]

稲垣航大・久米山幹太・石橋澄子・谷口守 : コンパクトシティ政策を本当にわかっていますか?一少ない「認知」、多くの「誤認」一土木計画学研究・講演集、Vol.67、P02-22、2023.5.

川合春平・松浦海斗・谷口守 : 経路探索 API を用いた個人の公共交通支出額の俯瞰的把握、一個人・都市間比較による負担構造の解明一、土木計画学研究・講演集、Vol.67、P02-3、2023.5. [優秀ポスター賞受賞]

久米山幹太・室岡太一・GOLUBCHENKO Stanislava・谷口守 : 広域にみる鉄道駅徒歩圏への来訪実態、一類型化を通じた俯瞰的整理一、土木計画学研究・講演集、Vol.67、P01-32、2023.5.

小林泰輝・稲垣航大・谷口守：使われ方からみるフレキシブルオフィスの実態把握、一満足度の差異に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.67、P02-2, 2023.5.

松場拓海・武田陸・宗健・谷口守：三大都市圏を発地とした COVID-19 による「分散型」転居意向の発生要因、一地方居住の促進に向けて一土木計画学研究・講演集、Vol.67、P01-33, 2023.5. [優秀ポスター賞受賞]

石橋澄子・川合春平・谷口守：COVID-19 流行下の自発的な態度変容と実際の行動変容の関係性の分析、第 18 回 JCOMM 宇都宮大会、2023.9.

川合春平・石橋澄子・谷口守：全国諸都市における自動車保有・利用コストの算出、一クルマにかかっているコスト、本当にわかっていますか？一、第 18 回 JCOMM 宇都宮大会、栃木県、2023.9. [優秀ポスター賞（エコモ財団賞）受賞]

石橋澄子・松浦海斗・谷口守：交通のピークレス化に対する評価指標の提案、一時間的偏在と変動に着目して一、都市計画報告集、No.22、pp.203-209、2023.9.

室岡太一・松浦海斗・谷口守：広域的視点から見る拠点の実態、一誘導施設の設定方針に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.68、pp. ps49-1(ポスターセッション 49 の 1 番目)、全 7 ページ、2023.11.

松場拓海・石橋澄子・谷口守：都市別自動車 CO₂ 排出量の長期的変遷、一COVID-19 流行を経た 34 年間にわたる追跡から一、都市計画報告集、No.22、pp.450-455、2023.12.

稲垣航大・Anarsuud SUKHBAATAR・谷口守：コンパクトシティ政策に対する行政職員の認知・意向の実態、都市計画報告集、No.22、pp. 538-543、2024.3.

◆ 国際会議：

Mamoru Taniguchi and Sumiko Ishibashi.: Time use research in the field of transportation planning. International Association for Time Use Research, Tokyo, November 29, 2023.11.

◆ その他：

指導学生受賞（石橋澄子：学長表彰（修士）／松場拓海：学長表彰（学類）／室岡太一：研究群長表彰／稲垣航大：学位プログラムリーダー表彰／石橋澄子：社会工学都市計画同窓会優秀賞（修士論文）／室岡太一：社会工学都市計画同窓会優秀賞（修士論文）／松浦海斗：社会工学都市計画同窓会優秀賞（卒業論文）／室岡太一：つくばスカラシップ／松浦海斗：校友会賞／室岡太一：土木計画学研究発表会優秀ポスター賞／川合春平：土木計画学研究発表会 優秀ポスター賞／松場拓海：土木計画学研究発表会 優秀ポスター賞／川合春平：JCOMM エコモ財団賞／）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学務・カリキュラム委員、早期修了プログラム実施委員

- ◆ 学位プログラム組織の業務への貢献（委員会等）：
論文委員長、地域未来創生コース担当、1年生担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
- ◆ 学会活動（役員／委員）：
 - 日本交通計画協会 代表理事
 - 日本モビリティ・マネジメント会議 理事
 - 日本不動産学会 理事
 - 日本都市計画学会 都市構造評価特別委員会 委員
 - 日本交通政策研究会 理事
 - 土木学会 環境賞評価委員

- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など：
 - 国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会」分科会長
 - 国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会
都市計画基本問題小委員会」委員長
 - 国土交通省 「社会資本整備審議会 建築分科会」委員
 - 国土交通省 「社会資本整備審議会 住宅宅地分科会」副会長
 - 国土交通省 「交通政策審議会」臨時委員
 - 国土交通省 「交通政策審議会 技術部会 グリーン社会ワーキンググループ」委員
 - 国土交通省 「社会資本整備審議会・交通政策審議会 技術部会 国土交通技術行政の
基本政策懇談会」委員
 - 国土交通省 「新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会」座長
 - 国土交通省 「立地適正化計画の実効性の向上に向けたあり方検討会」座長
 - 国土交通省・(一財)計量計画研究所 「全国都市交通特性調査検討会」委員長
 - 国土交通省 「国立研究開発法人審議会」委員長
 - 国土交通省 「スマートシティ海外展開に関する有識者会議」委員
 - 国土交通省 「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会」委員
 - 国土交通省 「河川技術評価委員会 流域計画・流域管理課題評価分科会」委員

環境省・(一社)地域循環共生社会連携協会 「LRT・BRT 導入利用促進事業審査委員会」委員
環境省・(一社)国際環境研究協会 「令和5年度交通分野専門委員会」委員
都市再生機構 「独立行政法人都市再生機構 事業評価監視委員会」委員
(一財)計量計画研究所 「テレワーク人口実態調査検討会」委員
(一財)運輸総合研究所 「人と多様なモビリティが共生する安全で心ときめくまちづくり
調査アドバイザー会議」委員

茨城県 「茨城県都市計画審議会」副委員長
茨城県 「茨城県国土利用計画審議会」委員長
茨城県 「茨城県土地利用審査会」委員
茨城県 「茨城県大規模小売店舗立地審議会」委員
茨城県 「プロポーザル審査委員会」委員
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」会長
福岡県 「福岡県都市計画審議会 持続可能な都市づくり専門委員会」委員
福岡県 「福岡県都市計画基本方針等検討委員会」委員
石岡市 「石岡市都市計画審議会」委員長
川越市 「川越市立地適正化計画推進懇談会」座長
千葉市 「モノレールインフラを活用した沿線地域のカーボンニュートラルの推進や
レジリエンス強化につながる公共交通志向型の沿線まちづくりを進めるための
方策検討委員会」専門委員

文京区 「文京区都市マスタープラン見直し検討協議会」副委員長
大田区 「大田区都市計画審議会」副委員長
静岡市 「静岡市次期みちづくり計画有識者検討会議」委員
静岡市 「静岡県立地適正化計画変更アドバイザー会議」会長
境町 「境町都市計画審議会」会長
大磯町 「大磯町まちづくり審議会」委員
都市計画コンサルタント協会 「認定都市プランナー評価委員会」委員
積水インテグレートドリサーチ 「積水化学自然に学ぶものづくり研究助成プログラム
審査委員会」委員

氏名	張 勇兵	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学類：情報ネットワーク／情報リテラシー（講義）／情報技術演習／プログラミング実習
- ◆ 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類生：3名
 - 社会工学専攻博士後期課程：3名
 - 社会工学専攻博士前期課程：5名

2. 研究

- 当該年度の研究活動概要：
 - モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、エスティック光通信ネットワークにおける波長・分波器・コア割り当て方式に関する研究
- 著書・論文等：
 1. Y. Wu, K. Zhang, and Y. Zhang: An accelerated benders decomposition approach for virtual base station formation in stochastic cloud-RANs, *Computer Networks*, Vol. 243, No. 110328 (Mar. 2024). DOI: <https://doi.org/10.1016/j.comnet.2024.110328>
- 学会発表等：
 2. C. Jin and Y. Zhang: Toward Increasing User Capacity through Application of Loopback-enabled Architecture and an Adaptive Caching Strategy in Mobile Cellular Networks, Proc. Asia Communications and Photonics Conference (ACP 2023), 5 pages, Wuhan, China, Nov. 4-7, 2023. DOI: [10.1109/ACP/POEM59049.2023.10369249](https://doi.org/10.1109/ACP/POEM59049.2023.10369249)
 3. Y. Zheng, W. Zheng, and Y. Zhang: Dynamic routing, spatial channel and spectrum assignment (RSCSA) in spatial channel networks (SCNs), Proc. Asia Communications and Photonics Conference (ACP 2023), 5 pages, Wuhan, China, Nov. 4-7, 2023. DOI: [10.1109/ACP/POEM59049.2023.10369249](https://doi.org/10.1109/ACP/POEM59049.2023.10369249)

[10.1109/ACP/POEM59049.2023.10369348](https://doi.org/10.1109/ACP/POEM59049.2023.10369348)

4. Y. Wu and Y. Zhang: Cost-effective joint establishment of fronthaul and virtual base stations in a stochastic C-RAN, *Proc. 3rd Int. Workshop Big Data and Machine Learning for Networking (BDMLN2023) with 32nd Int Conf. Computer Communications and Networks (ICCCN2023)*, 7 pages, Jul. 27, Honolulu, HI. DOI: [10.1109/ICCCN58024.2023.10230143](https://doi.org/10.1109/ICCCN58024.2023.10230143)

- その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究群カリキュラム委員、システム情報工学研究群 FD 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類コンピュータ委員、社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類運営委員、社会工学・サービス工学学位プログラムカリキュラム委員長、社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類教学マネジメント・FD 委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 1) **Associate Editor** (2007～), *Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications*, Springer.
 - 2) **Japanese representative of IFIP Technical Committee 7** (System Modelling and Optimization) (2020～)
 - 3) **Program Committee**, IEEE Int. Wireless Communications and Mobile Computing Conference (IWCMC2023), Marrakesh, Morocco, June 19–23, 2023.
 - 4) **Referee** for IEEE/OSA *Journal of Lightwave Technology*, *Peer-to-Peer Networking and Applications*

氏名	飛田 幹男	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	測量学、宇宙測地学、空間情報学、災害科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- ・大学院前期課程 公共インフラ計画／社会工学ワークショップ／社会工学ファシリテーター育成プログラム
- ・大学院後期課程 MDA 後期プロジェクト研究／MDA 後期研究留学／MDA 異分野融合/連携ゼミナール

2. 研究

◆ 学会発表等：

飛田幹男, 干渉合成開口レーダー(InSAR)の干渉条件, 日本地球惑星科学連合 2023 年大会, ハイブリッド開催 (幕張メッセ & オンライン), 2023-05-24

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・数理・データサイエンス・AI (MDA) 教育推進室の業務内容検討会 委員
- ・あいおいニッセイ同和損害保険(株)との人材育成戦略パートナーシップ協定 締結
- ・NTT データ・筑波大学 MDA 人材育成戦略パートナーシップ協定 締結
- ・分野融合型数理・データサイエンス・AI 教育推進本部運営会議 委員
- ・つくばスーパーサイエンスシティの実現に向けた対話セミナー 企画運営
- ・豊富な空間情報でビジネスを展開する企業との対話セミナー 企画運営
- ・システム情報工学関連業界研究セミナー2023 企画運営・実行委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ ALOS-2 アーカイブデータを用いた事業化実証検討会 委員
- ◆ JICA 海外プロジェクト講義: 2023-12 インドネシア気象気候地球物理庁 (BMKG) 職員向け地震・津波観測及び情報発信能力向上プロジェクト InSAR を活用した地震解析
- ◆ 中学生向けキャリア教育講演会講演: 2023-11 ひたちなか市内の2つの中学校向け講演会 @那珂湊総合福祉センター

氏名	藤川 昌樹	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位 P (専任)		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (専任)		
担当学類	社会工学類 (専任)		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学 類 都市計画の歴史／現代まちづくり論／住環境計画演習／設計演習 I
 - 大学院 都市形成史/社会工学 WS I・II
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2人
 - 社会工学学位プログラム 前期7人 後期9人
 - 社会工学学位プログラム研究生 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・受託研究「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」(代表)
 - ・受託研究「都市・住宅・クルマの相互関係比較史」(分担)
 - (モビリティイノベーションの社会応用と未来社会工学研究、トヨタ自動車、代表：吉瀬章子)
 - ・基盤研究 (A)「大火からの復興を通して見た近代の町並みの再評価」(代表)
- ◆ 著書・論文等：
 - ・陳穎・藤川昌樹「清代福州における住宅の三類型」(『日本建築学会計画系論文集』810、pp.2,436-2,443、2023年8月)
 - ・藤川昌樹・劉一辰・李雪「日本の伝統的都市と自動車は共存できるか？」(大澤義明編『スマートモビリティ時代の地域とクルマ：社会工学アプローチによる課題解決』pp.62-81、学芸出版社、2023年9月)
 - ・藤川昌樹「新刊紹介『リスボン』」(『建築史学』81、p.223-226、2023年9月)
 - ・宋宇辰・藤川昌樹「明清時代における漕河沿い城・鎮の空間構成に関する研究(その1)：漕運システムと漕河沿岸空間の構成要素との関係」(『日本建築学会計画系論文集』814、pp.3,416-3,425、2023年12月)
 - ・藤川昌樹・山本雅和編著『近世京都の大名屋敷』(文理閣、全350頁、2024年3月)
 - ・呂志裕・藤川昌樹「清代蘇州の屋外空間における商人達の「自発的な居場所」のパターン：「姑蘇繁華図」の分析」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築計画、pp.1397-1398、2023年9月)

- ・艾思思・藤川昌樹「観光開発を目的とした窯業集落の保全の実態とその課題：中国陝西省澄城県の伝統村落・堯頭村を事例に」『日本建築学会大会学術講演梗概集』農村計画、pp.213-214、2023年9月
- ・渡辺莉緒・藤川昌樹『大日本職業別明細図之内』の空間表現 千葉県北部の地図を対象に」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp. 157-158、2023年9月
- ・芦澤美月・劉一辰・李雪・藤川昌樹「白川郷における駐車空間の分布と交通整備の経緯：重要伝統的建造物群保存地区における駐車空間に関する研究」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp.739-740、2023年9月
- ・宋宇辰・藤川昌樹「明清時代漕運と大運河沿いの都市空間特性との関係 その2：濟寧を例として」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 1-2、2023年9月
- ・陳穎・藤川昌樹「清代福州における住宅の類型とその特徴 古絵図 De Stud Hockziew en de stad Nanta を中心とした分析」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp. 3-4、2023年9月
- ・呂夢琦・藤川昌樹「戦後昭和期の横浜中華街における商住空間の分布と特徴：中区明細地図の考察から」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.65-66、2023年9月
- ・藤川昌樹・呂志裕・楊佳楽「近代の町並み景観の多様性：大火からの復興を通して見た近代の町並みに関する研究 その1」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.167-168、2023年9月
- ・楊佳楽・藤川昌樹「嵩山史跡群における建物の空間構成および登封県の建立の経緯」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.841-842、2023年9月
- ・余思奇・藤川昌樹「五台山行宮座落地盤圖」からみた清代白雲寺行宮」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.843-844、2023年9月
- ◆ 学会発表等：
 - ・下田一太・藤川昌樹(司会)「その後の伝建地区」(建築史学会大会記念シンポジウム、つくば国際会議場、2023年4月15日)
 - ・河東義之・藤川昌樹・吾妻周一「鼎談：次世代に繋ぐ真のまちづくりとは」(ディスカバー真壁30周年記念シンポジウム、真壁伝承館、2023年12月3日)
 - ・藤川昌樹「阿見町の歴史的遺産を未来にどう生かすか?：歴史まちづくりの考え方と手法」(あみ未来塾、阿見町中央公民館、2024年1月10日)
- ◆ その他：
 - ・教育研究機関受託研究員の受け入れ：中山利恵(京都工芸繊維大学准教授、2023年10月～2024年9月)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・システム情報系開学50周年記念行事における八郷古民家研究拠点のサイト運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・社会工学域関連施設委員長
- ・社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム・社会工学類運営委員
- ・社会工学類4年クラス担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

学会活動

- ・建築史学会常任委員・会長
- ・日本建築学会員
- ・日本都市計画学会会員

学外から委嘱された委員

- ・室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- ・茨城県まちづくりアドバイザー
- ・史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
- ・桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会会長
- ・つくば市都市景観審議会委員
- ・土浦市都市計画審議会会長
- ・桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
- ・土浦市文化財保護審議会委員
- ・つくば市文化財保護審議会会長
- ・笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
- ・石岡市景観調査委員会委員長
- ・茨城県文化財保護審議会委員
- ・結城市景観審議会委員長・景観アドバイザー
- ・文化庁文化審議会文化財分科会第二専門調査会委員
- ・土浦市文化財保存活用地域計画推進協議会委員
- ・石岡市文化財保存活用地域計画推進協議会委員
- ・土浦市公共施設等再編・再配置策定委員会委員長
- ・日本建築学会賞選考委員（業績部会・部長）
- ・日本建築学会賞大賞選考委員
- ・桜川市上曽トンネル開通に伴う地域活性化委員会委員長
- ・土浦市歴史的風致維持向上計画推進協議会会長

氏名	繆瑩	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	組合せ論、情報セキュリティ、情報通信・蓄積		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：微積分 II・III/離散数学/情報ネットワーク/社会と最適化
大学院：情報セキュリティ
- ◆ 指導学生数：社会工学類 0 人/社会工学学位プログラム（前期）2 人/社会工学学位プログラム（後期）1 人/研究生 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費基盤研（B）「スパースな結合行列を持つ組合せ的構造の分析と構成」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
[1] M. Fernandez, G. Kabatiansky, G. A. Kruglik, and Y. Miao, Codes for exact support recovery of sparse vectors from unacuurate linear measurements and their decoding, Problems of Information Transition 59 (2023), 14-21.

[3] M. Fernandez, G. Kabatiansky, I. Kamel, Y. Miao, and T. F. Rabie, Multimedia fingerprinting codes resistant to linear attacks and adversarial noise, 2023 International Symposium on Networks, Computers and Communications (ISNCC), 1-5.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
コンプライアンス推進委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院：入試実施委員

域：経営工学人事世話人

4. 学外の社会貢献

各種活動：

Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 - present.

Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 - present.

Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009 - present.

Editor: Bulletin of the Institute of Combinatorics and its Applications, January 2017 - present.

Editor: IEEE Transactions on Information Theory, December 2023 - present.

Editor: Confressus Numerantium, January 2024 - present.

Medals Committee: Institute of Combinatorics and its Applications, April 2023 - March 2025

氏名	渡辺 俊	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻・環境科学専攻 (生命環境科学研究科)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築情報学、都市情報学、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 空間デザイン論／都市計画情報演習／
 - 住環境計画演習／設計演習Ⅱ
 - 大学院 空間情報科学／地域データ解析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人／社会システム工学専攻 5人／研究生 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 挑戦的研究(萌芽) コンパクトシティを目指した都市デザイン戦略のための都市構造評価指標の探究
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 上野諒介; 渡辺 俊: デザイン共創環境を用いた集合住宅設計支援ツールの開発、日本建築学会技術報告集 30(74)、日本建築学会、2024年2月
- 安井 悠人; 渡辺 俊: 総合設計制度による建築物が街路景観の印象に与える影響に関する研究 —3D都市モデル PLATEAU 及び VR を用いて—、第46回 情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2023年12月
- 高須賀 アマラ; 渡辺 俊: 都市の集約化が分散型エネルギーシステム導入に与える影響について、第46回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2023年12月
- 宮下 開成; 渡辺 俊: 街路網の広がりから見た城下町の空間構成の変容に関する研究、第46回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2023年12月
- ◆ 学会発表等：
 - 安井悠人; 渡辺 俊: 総合設計制度による公開空地の可視性に関する研究、2023年度日本建築学会大会(近畿)、2023年9月
 - 高須賀アマラ、渡辺、俊: 分散型エネルギーシステムの導入適性の地域差についての研究、2023年度日本建築学会大会(近畿)、2023年9月
 - 宮下開成; 渡辺 俊: 街路網の広がりから見た城下町の空間構成の変容に関する研究、2023

年度日本建築学会大会(近畿)、2023年9年

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 コンピュータ委員
 - 社会工学類 コンピュータ委員
 - 社会工学類 入試実施委員
 - 社会工学類 建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 日本建築学会学術推進委員会委員
 - 日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員
 - 日本建築学会デザイン科学小委員会委員
 - 国土交通省建築 BIM 推進会議委員
 - 他

氏名	雨宮 護	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市計画入門／住環境計画概論／都市計画情報演習／現代まちづくり論／住環境計画演習／設計演習Ⅰ／設計演習Ⅱ／都市計画事例講義／都市数理／地球規模課題基礎実習
大学院：都市と環境／プレイスメイキング／ファシリテーター育成プログラム／ファシリテーター育成プレプログラム

◆ 指導学生数：

社会工学類 3 人／地球規模課題学位プログラム 1 人／社会工学学位プログラム（前期）9 人／社会工学学位プログラム（後期）1 人／社会工学専攻（後期）1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦的研究（萌芽））「日本における農村犯罪学の創成に向けた萌芽研究：窃盗犯を事例とする実態分析」，研究代表者（2023 年度～2025 年度）
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 A）「安全と身体活動を両立する Active School Travel の探究と都市計画・デザイン手法の確立」（代表：樋野公宏（東京大学大学院工学系研究科准教授），分担研究者，2023～2026 年度）
3. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」の形成実態と展開可能性」（代表：藤井さやか（筑波大学システム情報系准教授），分担研究者，2023～2026 年度）
4. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「地理空間ビッグデータを用いた犯罪の時空間分析と社会実験への展開」，研究代表者（2021 年度～2024 年度）
5. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦萌

芽)「集合住宅における子ども・女性に対する犯罪の実態分析と対策立案」(代表:樋野公宏(東京大学工学系研究科准教授)), 分担研究者(2018年度~2021年度) ※期間延長

◆ 著書・論文等:

(査読付学術雑誌掲載論文)

1. 米田有希・雨宮護(2023): GPS ログデータから捉えたアクティビティスペースに基づく COVID-19 流行前後の人々の行動変化の実態把握, 都市計画論文集, 58(3), pp.1164-1170.
2. 今井巧・雨宮護・島田貴仁・讃井知・大山智也(2023): 子供の前兆事案被害における保護者の警察・学校への連絡意図の形成要因, 都市計画論文集, 58(3), pp.751-758.
3. Shimada, T., Suzuki, A. & Amemiya, M. Measuring the impact of the state of emergency on crime trends in Japan: a panel data analysis. *Crime Science* 12, 13 (2023). <https://doi.org/10.1186/s40163-023-00187-2> (CiteScore = 5.6; SNIP = 2.388; SJR = 1.777 in 2023)
4. 樋野公宏・雨宮護・田中賢(2023): 防犯性の高い低層賃貸集合住宅に対する居住者意識: 認定物件および一般物件居住者へのアンケート調査から, 日本建築学会計画系論文集, 88(806), pp.1366-1370.
5. 香嶋愛美・雨宮護(2023): 筑波研究学園都市の国家公務員宿舎跡地再開発に伴う緑道のネットワーク中心性の変化, ランドスケープ研究, 86 巻 5 号, pp.555-560.
6. 森崎有香・雨宮護(2023): Google Street View を用いた系統的社会観察による都市のウォークビリティ評価, ランドスケープ研究 86 巻 5 号, pp.517-522.
7. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2023) Method for Applying Crowdsourced Street-Level Imagery Data to Evaluate Street-Level Greenness, *ISPRS International Journal of Geo-Information*, 12, no. 3: 108. <https://doi.org/10.3390/ijgi12030108> (IF=3.099; Five year IF=3.165 in 2022; CiteScore=5.0; SJR=0.72 in 2021)

(著書)

8. 大澤義明編, スマートモビリティ時代の地域とクルマ: 社会工学アプローチによる課題解決, 学芸出版社, コラム「スーパーシティの街路樹問題」(41 頁), 2023 年 9 月.
(審査のない雑誌論文・紀要)
9. Xinyu Tang, Mamoru Amemiya, and Sunyong Eom (2023) Revealing Access Equity: An Examination of Walking Course Distribution and Streetscape Quality for Residents - A Case Study in Tsukuba City, *GIS 理論と応用*, 31 巻 2 号, p.35.
10. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2023) The generation process and data characteristics of Volunteered Street View Imagery (VSVI) for streetscape monitoring - A case study in Tokyo -, *GISA & International Association of Geo-Informatics (IAG'i) 2023*, 8p.
11. Xinyu Tang, Mamoru Amemiya, and Sunyong Eom (2023) Revealing Access Equity: An Examination of Walking Course Distribution and Streetscape Quality for Residents - A Case

Study in Tsukuba City, GISA & International Association of Geo-Informatics (IAG'i) 2023, 7p.

12. 広兼靖也・雨宮護 (2023) 社会地区分析を用いた筑波研究学園都市の変容の記述：2010年から2020年の10年間に着目して，都市計画報告集，22巻2号，pp.268-274.
 13. 早川礼菜・雨宮護 (2023) Park-PFIを導入した都道府県営公園の計画段階における市・民間企業・市民の参画実態：制度当初期に事業に着手した8公園を対象とするヒアリング調査報告，都市計画報告集，21巻4号，pp.381-384.
- ◆ 学会発表等：
1. 児玉駿吾・雨宮護・鈴木雅和 (2023) 「星景」の発見：構図分析による新たな風景の理解，日本造園学会関東支部大会ポスターセッション，前橋工科大学，2023.12.10
 2. 前田早貴・雨宮護 (2023) 「農」を活用した出所者等への支援実態の解明，日本造園学会関東支部大会，前橋工科大学，2023.12.10（梗概：2023年度日本造園学会関東支部大会梗概集／事例・研究報告集，41，57-58）
 3. 香嶋愛美・雨宮護・樋野公宏 (2023) GPS ロガーを用いた「ながら見守り」活動の計測，CSIS DAYS 2023 東京大学柏キャンパス，2023.11.24-25（梗概：Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2023, D05）
 4. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2023) Mechanisms contributing to VSVI's data quality improvement for streetscape monitoring: A case study of Mapillary in Tokyo, CSIS DAYS 2023, 東京大学柏キャンパス，2023.11.24-25（梗概：Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2023, B04）
 5. Mamoru Amemiya (2023) Secondary Publication of Crime Open Data in Japan: Toward an International Study, Poster Session, ASC Annual meeting 2023, Philadelphia, PA, November 15-18.
 6. 米田有希・雨宮護 (2023) : GPS ログデータから捉えたアクティビティスペースに基づく COVID-19 流行前後の人々の行動変化の実態把握，日本都市計画学会 2023 年度全国大会（第 58 回論文発表会），岩手大学，2023.11.12.
 7. 今井巧・雨宮護・島田貴仁・讚井知・大山智也 (2023) : 子供の前兆事案被害における保護者の警察・学校への連絡意図の形成要因，日本都市計画学会 2023 年度全国大会（第 58 回論文発表会），岩手大学，2023.11.11.
 8. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2023) The generation process and data characteristics of Volunteered Street View Imagery (VSVI) for streetscape monitoring - A case study in Tokyo -, International Association of Geo-Informatics (IAG'i) 2023, Oral presentation, The university of Electro-Communications, 2023.10.28-29. (abstract: GISA & International Association of Geo-Informatics (IAG'i) 2023, 7p.)
 9. Xinyu Tang, Mamoru Amemiya, and Sunyong Eom (2023) Revealing Access Equity: An Examination of Walking Course Distribution and Streetscape Quality for Residents - A Case Study in Tsukuba City, International Association of Geo-Informatics (IAG'i) 2023, Oral

presentation, The university of Electro-Communications, 2023.10.28-29. (abstract: GISA & International Association of Geo-Informatics (IAG'i) 2023, 7p.)

10. 広兼靖也・雨宮護 (2023) 茨城県つくば市における 2012 年以降の人口移動の実態：住民基本台帳データを用いた住居レベルで人口移動の記述, 第 32 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション, 電気通信大学, 2023.10.28-29.
11. 香嶋愛美・雨宮護 (2023) : 筑波研究学園都市の国家公務員宿舎跡地再開発に伴う緑道のネットワーク中心性の変化, 2023 年度日本造園学会全国大会, 南九州大学, 2023.6.16-18.
12. 森崎有香・雨宮護 (2023) : Google Street View を用いた系統的社会観察による都市のウォークビリティ評価, 2023 年度日本造園学会全国大会, 南九州大学, 2023.6.16-18.
13. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2023) The generation process and data characteristics of volunteered street view imagery for streetscape monitoring: a case study in Tokyo, Japan Geoscience Union Meeting 2023, 幕張メッセ・ハイブリッド, 2023.5.21-26.

◆ その他：

1. 赤澤宏樹・雨宮護 (2023) 学術タスクミニフォーラム, ランドスケープ研究, 87(3), 249 頁.

3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

1. 筑波トランスパシフィックプログラム実施委員
2. ホームカミングデー委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

1. システム情報系研究倫理審査委員（副委員長）
2. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム広報委員
3. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム教学マネジメント委員
4. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム施設委員
5. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラムコンピュータ委員
6. 社会工学類広報委員
7. 社会工学類教学マネジメント委員
8. 社会工学類施設委員
9. 社会工学類コンピュータ委員
10. 社会工学データサイエンス運営委員
11. 社会工学類 2 学年担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

(学会活動)

1. 日本造園学会「論文集委員会」副委員長（2023年度～）
2. 日本環境心理学会「運営委員会」委員（2017年度～2020年度，2023年度～）
3. 日本都市計画学会「企画調査委員会研究交流事業小委員会」委員（2020年度～）
4. 日本都市計画学会「査読委員会」委員（2008年度～2010年度，2014年度～2020年度，2022年度～）
5. 日本造園学会研究論文集校閲委員会委員（2007年度～）
6. 日本都市計画学会「会長アドバイザリー会議」委員（2017年度～）

(学外組織からの委嘱委員等)

1. 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員（2013年度～）
2. 神奈川県警察「犯罪・交通事故分析に関する共同研究会」委員（2023年度～）
3. 大阪府警察「防犯対策高度化協働研究会」委員（2017年度～）
4. 福岡県警察「犯罪予防研究アドバイザー」（2014年度～）
5. 茨城県「総合計画審議会」委員（2023年度～）
6. 土浦市「建築審査会」委員（2022年度～）
7. 守谷市「景観審議会」委員，副会長（2019年度～（2019年度～2020年度（委員），2021年度～（副会長））
8. 牛久市「都市計画審議会」副会長（2019年度～）
9. 北区「景観づくり審議会」委員（2017年度～）
10. 足立区「防犯まちづくり推進アドバイザー」（2017年度～）
11. 市川市「空家等対策協議会」委員（2017年度～）
12. 八潮市「都市計画審議会」委員（2017年度～）
13. つくば市「生活安全推進協議会」副会長（2016年度～）
14. つくば市「都市計画審議会」委員（2016年度～）
15. つくば市「明るいまちづくり協議会」副会長（2015年度～）
16. つくば市「研究学園中心地区の街路灯設置に向けた協議会」副会長（2015年度～）
17. 公益財団法人都市緑化機構「SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）都市のオアシス分科会」審査委員（2021年度～）

氏名	上市 秀雄	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定、認知心理学、社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経済行動論／戦略行動システム演習
 - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 4名
 - 社会工学学位プログラム 博士前期課程 7名
 - 社会工学学位プログラム 博士後期課程 8名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、ストレス対処、消費者心理など
- ◆ 著書・論文等：
 1. Ni, S., & Ueichi, H. (2024).
Factors influencing behavioral intentions in livestream shopping:
A cross-cultural study. *Journal of Retailing and Consumer Services*, 76, 103596.
 2. Ito, T., & Ueichi, H. (2023).
Does macro-level general trust influence second language communication?:
targeting prefectural capitals. *BMC Research Notes*, 16(1), 205.
 3. Ni, S., Dong, R., & Ueichi, H. (2023).
The influence of online multiplayer games on social capital and interdependent
well-being in Japan. *Entertainment Computing*, 47, 100587.
- ◆ 学会発表等：
 1. Ito, T., & Ueichi H. (2023).
The Effect of General Trust on Willingness to Communicate in English
among Japanese individuals across various situations.
International Congress on Behavioral & Social Science Research. (online)

2. 上市秀雄・謝婧雅 (2023).
HPV ワクチン接種行動に影響を及ぼす知識・認知・感情要因：
主観的規範、周囲接触者の有無、HPV ワクチン知識の重要性.
日本心理学会第 87 回大会発表論文集. 1C-070-PL.
3. 伊藤健彦・上市秀雄 (2023).
一般的信頼を基盤とした英語 Willingness to Communicate モデルの検討.
日本心理学会第 87 回大会発表論文集. 1D-013-PC.
4. 草野颯太・上市秀雄 (2023).
個人差要因及びマンガ作品内の表現がマンガに対する認識・行動に与える影響.
日本心理学会第 87 回大会発表論文集. 2A-018-PC.
5. 小林慶子・今井葉子・上市秀雄 (2023).
里山の生物多様性を育む農林業活動に対する市民の意識.
日本生態学会第 70 回全国大会. P2-263.
6. 上市秀雄 (話題提供者) (2023).
日本応用心理学会公開シンポジウム 2023 「ネガティブな感情・心理の活用と応用」
(タイトル：後悔が生じるメカニズムと対処法)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
研究群企画室委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
学類入試実施委員
社工学位プログラムリーダー意向調査管理委員会 委員長
2 年クラス担任
授業世話人 (学類：意思決定論，大学院：サービス満足度解析)

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
学会委員等
産業・組織心理学会 理事
優秀論文賞選考委員
日本応用心理学会 企画委員
公開シンポジウム 2023 「ネガティブな感情・心理の活用と応用」企画・実施委員長
学会誌査読
心理学研究
その他 茗溪学園中学校高等学校 個人課題研究発表会 出席

氏名	浦田淳司	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム (専任)		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (専任) サービス工学学位プログラム (分担)		
担当学類	社会工学類 (協力)		
研究分野	行動科学、都市交通計画、災害避難、非定常システムマネジメント		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画マスタープラン演習

【大学院】MDA 異分野連携ゼミナール、MDA 異分野融合ゼミナール、MDA 後期プロジェクト研究、MDA 後期研究留学

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

JSPS 科学研究費補助金 (基盤 B)、災害時交通網の動学的設計にむけた不確かさ回避行動の評価手法の構築(代表)、2023-2026 年度

JST 創発的研究支援事業、災害時都市活動支援のための software2.0 型シミュレータの構築(代表)、2023-2025 年度

◆ 著書・論文等：

Urata, J., Hato, E., Dynamic discrete choice model and its estimation algorithm with dynamic inconsistent expected utility in an uncertain situation, Transportation Research Part C: Emerging Technologies, Vol. 158, 104408, 2024.

◆ 学会発表等：

M. Zeeshan, Urata, J., Hato, E.: A tri-level optimization model to design transit routes for public buses and privately owned commercial vehicles with elastic passenger demand, The 27th international conference of Hong Kong society for transportation studies, HongKong, December 11-12, 2023.

Urata, J., Kaneda, Y., Ishii, R., Developing an Estimation Algorithm for Generalizing the Parameters of the network-GEV model in Destination Choice, 9th International Symposium on Transportation Data & Modelling (ISTDM2023), Ispra, June 19-22 2023.

Mochizuki, Y., Pel, A. J., Hinsbergen, C., Urata, J.: Robust OD matrix estimation method under low sampling rate, by utilizing multiscale information of questionnaire data, International Symposium on Transportation Data & Modelling (ISTDM2023), Ispra, Italy, June 19 – 22, 2023.

金田侑大, 浦田淳司, 石井良治: 目的地選択の高解像度化にむけた汎化性の高いパラメータ推定アルゴリズム, 第 67 回土木計画学研究発表会, No.P01-57, 2023.

浦田 淳司, オムソンヨン, 川島 宏一, 筑波大学理工学群におけるデータサイエンス応用基礎教育, 大学教育と情報, 2023 年度 No.4, pp. 28-32, 2024.

◆ 受賞:

土木学会論文賞: 河瀬 理貴, 井料 隆雅, 浦田 淳司: 情報の不確実性を考慮した救援物資の在庫輸送戦略の数理解析, 土木学会論文集 D3(土木計画学)Vol. 77, No. 3, pp. 184-200, 2021.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

分野融合型数理・データサイエンス・AI 教育推進本部および数理・データサイエンス・AI (MDA) 教育推進室で MDA 応用基礎、データ・サイエンス・エキスパート・プログラム (DSEP) 等の全学の MDA 教育の企画・推進を担当

4. 学外の社会貢献

◆ 社会活動:

つちうら MaaS 推進協議会 委員(2023. 04-)

つくばみらい市行政改革懇談会委員(2023. 09-2026. 09)

◆ 学会関連活動:

計画・交通研究会 スマートシティ・カーボンニュートラル小研究会主査(2023. 04-)

土木学会 110 周年実行委員会幹事会幹事(2023. 10-)

土木学会全国大会プログラム編成委員会第IV部門委員(2023. 02-2023. 09)

土木計画学研究委員会委員兼幹事 (2022. 09-)

土木計画学 令和 6 年能登半島地震対応 特別プロジェクト 委員 (2024. 02-)

Local Committee, The 12th Triennial Symposium on Transportation Analysis (TRISTAN XII) (2022. 07-)

復興デザイン会議幹事 (2020. 06-)

氏名	大久保 正勝	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学, 計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 情報リテラシー演習／社会工学演習／マクロ経済学／マクロ計量分析
大学院 資産評価論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 2人／学位プログラム 0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・科学研究費補助金 基盤研究 (C)「モデル不確実性を考慮したマクロ経済モデルの実証的評価と分析手法の開発」(代表)
 - ・筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「ビッグデータ時代における実証分析の理論と応用」(サポートメンバー)
- ◆ 著書・論文等：
Okubo, Masakatsu (2023) On the Intertemporal Marginal Rate of Substitution for Recursive Utility Models with Nonseparability across Goods, manuscript, University of Tsukuba.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系施設安全衛生管理委員会 委員
- ◆ 学位プログラム組織の業務への貢献 (委員会等)：
社会工学域・学類施設委員会 委員
学類カリキュラム委員会 委員
社会工学類 3年クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：なし

氏名	太田 充	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学, 地域科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング入門/都市数理
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学専攻 0 人／社会工学学位プログラム 13 人／サービス工学学位プログラム 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
・基盤研究 C「衛星情報を利用した物流における大気環境改善の評価」（研究代表者）
・著書・論文等：
・審査付論文
Cheolmin Kang, Mitsuru Ota, Koichi Ushijima (2024): “Benefits of diesel emission regulations: Evidence from the World's largest low emission zone,” Journal of Environmental Economics and Management 125, p. 102944.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 茨城高専連携委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
論文委員会委員（大学院）
教学マネジメント委員会（授業評価・FD）（大学院・学類）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：都市住宅学会理事会常務理事(業務執行理事)、都市住宅研究センター次長、都市住宅学会総務企画委員会委員長、都市住宅学編集委員会委員、都市住宅学学会賞委員会委員、日本不動産学会総務委員会委員

氏名	Eom, Sunyong (嚴先鏞)	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学学位プログラム (専任)		
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (専任) サービス工学学位プログラム (分担)		
担当学類	社会工学類 (協力) 地球規模課題学位プログラム (学士) (分担)		
研究分野	都市解析, 空間情報科学, 土地利用計画, ビッグデータ解析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市解析, Seminars on Global Issues A-I・II, Practical Training on Global Issues A-I・II

【大学院】MDA 異分野連携ゼミナール, MDA 異分野連携ゼミナール, MDA 後期プロジェクト研究, MDA 後期研究留学, 社会工学ファシリテーター育成プログラム

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費 (若手研究) 「気候変動の緩和と適応のための交通ビッグデータに基づいた都市構造設計モデルの開発」 (代表)

ヒロセ財団研究助成 「日常・非日常の施設利用における有効な地域連携のための施設計画のための数理モデルに関する研究」 (代表)

◆ 著書・論文等：

Y. Huang, S. Eom, and T. Suzuki, Preference-based jogging route selection in downtown Tokyo. *Cities & Health*, 1–15, February 2024.

S. Eom, H. Kim, D. Hasegawa, and I. Yamada, Pedestrian movement with large-scale GPS records and transit-oriented development attributes, *Sustainable Cities and Society*, Vol. 102. 105223, January 2024.

H. Sung and S. Eom, Evaluating transit-oriented new town development: Insights from Seoul and Tokyo, *Habitat International*, Vol. 144, 120996, January 2024.

S. Eom, H. Yeo, and E. Byun, Facility Resources Allocation Model Response to Spread of Infectious Diseases: Focusing on COVID-19 Isolation Facilities, *Journal of Korea Planning Association*, Vol.58, No.5, pp.77-88, October 2023.

嚴先鏞, 長谷川大輔：人口変動を考慮した拠点計画手法に基づいた将来の拠点配置戦略の検討, *都市計画論文集*, Vol.58, No.3, pp. 585-591, 2023.10.

西堀泰英, 嚴先鏞：新型コロナウイルス感染拡大前後の商業集積地滞在人口の変化とその要因分析, *土木学会論文集*, Vol.79, No. 6, 2023.4

◆ 学会発表等：

飛松涼太, 巖先鏞, 鈴木勉：全国小地域の年齢構成遷移と人口動態, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, 2024年3月.

竹内真雄, 巖先鏞, 鈴木勉：GPS データによる東京区部商業集積地の滞在移動特性比較, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, 2024年3月.

Liu Yuheng, 巖先鏞, 鈴木勉, Evaluating impacts of signal control on vehicle speed guidance under connected vehicle environment, 第21回 ITS シンポジウム 2023年10月.

X. Tang, M. Amemiya, and S. Eom, Revealing Access Equity: An Examination of Walking Course Distribution and Streetscape Quality for Residents -A Case Study in Tsukuba City-, GISA & IAG'1, October 2023.

早坂遼, 神崎達也, 巖先鏞, 鈴木勉：通学距離最小化と安定マッチングによる学校割当比較, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, 2023年9月.

E. Tsujimoto, S. Eom, and T. Suzuki, Road Detection for Post-Disaster Using Twitter Image Data and Deep Learning Considering Earthquake, 18th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management (CUPUM), Montreal, Canada, May 2023.

D. Hasegawa, S. Eom, and T. Suzuki, Determining the Transit Catchment Area and Distance Distribution, 18th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management (CUPUM), Montreal, Canada, May 2023.

◆ 受賞：

地理情報システム学会学術研究発表大会優秀発表賞（共著）

地理情報システム学会学術研究発表大会ポスターセッション賞（共著）2件

東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会優秀共同研究発表賞（共著）

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

数理・データサイエンス・AI (MDA) 教育推進室で応用基礎、データ・サイエンス・エキスパート・プログラム (DSEP) 等全学の MDA 教育を担当、
社会工学学位プログラムカリキュラム委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動：

日本オペレーションズ・リサーチ学会 未来都市の OR 研究グループ 幹事

◆ 外部講演：

2024.2.19 Exploring Human Mobility for Urban Planning Based on Big Data: Insights and

Tasks, Korea Institute of Civil Engineering and Building Technology, Korea
2023.6.16 The Joint International Seminar on Location-Based Big Data in Urban Planning

氏名	甲斐田 直子	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任 環境学学位プログラム 兼担		
学位プログラム (博士前期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担 国際連携持続科学専攻共同学位プログラム 兼担		
担当学類	社会工学類 専任 地球規模課題学位プログラム 兼担		
研究分野	環境心理学、環境配慮行動、環境意思決定、持続可能な消費		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 都市環境評価論／都市計画演習／都市計画入門
 - 大学院 Environmental Psychology／Environmental Field Appraisal
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3名
 - 地球規模課題学位プログラム (学類) 1名
 - 社会工学学位プログラム博士前期課程 2名
 - 社会工学学位プログラム博士後期課程 2名
 - 環境科学学位プログラム博士前期課程 7名
 - 国際連携持続環境科学専攻博士前期課程 1名
 - 持続環境学学位プログラム博士後期課程 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金 (基盤 B) 環境配慮行動の心理的障壁を形成・緩和する「きっかけ」体験の地域横断研究 (代表), 2023-2026 年度.
 - 共同研究「航空移動の価値研究」, 日本航空株式会社, 2023 年度.
- ◆ 著書・論文等：
 - Kaida, K., & Kaida, N. (2023). Memory load of information encoded amplifies the magnitude of hindsight bias. *PLoS ONE*, *18*(4): e0283969.
 - Wang, T., Kaida, N., & Kaida, K. (2023). Associations of positive and negative perceptions of outdoor artificial light at night with nighttime outdoor behaviors and health: Self-reported data analyses on urban and suburban residents in

Japan. *Sustainability*, 15(17), 12938.

Kaida, K., Mori, I., Kihara, K., & Kaida, N. (2023). The function of REM and NREM sleep on memory distortion and consolidation. *Neurobiology of Learning and Memory*, 204, 107811.

小濱幸平・甲斐田直子 (2023). 肉類消費抑制と代替肉普及のためのコミュニケーション方策の効果検証. *環境情報科学論文集*, 37, 86-91.

Mohammed, S., & Kaida, N. (2024). Opportunities and challenges for circular economy in the Maldives: A stakeholder analysis of informal e-waste management in Greater Malé. *Journal of Environmental Management*, 358, 120944.

◆ 学会発表等：

Wang, T., Kaida, N., Kaida, K. (2023). Associations of outdoor nighttime light with human health and behaviors in Tsukuba, Japan. International Conference of Environmental Psychology, June 2023, Aarhus, Denmark.

Itoi, K., Kaida, N., Abdullah, N., Sobian, A. (2023). Environmental values, perceptions and behaviors of students toward plastic waste reduction in Japan and Malaysia. International Conference of Environmental Psychology, June 2023, Aarhus, Denmark.

Kawamata, T., Itoi, K., Mohammed, S., & Kaida, N. (2023). The sense of consent facilitates plastic waste separation at the household level: survey evidence from Tsukuba, Japan. International Conference on Resource Sustainability, August 2023, Guildford, UK.

Nguyen, H.T.D., Kaida, N., & Tamura, M. (2023). Potentials of no single-use plastic initiatives in plastic waste management in island communities in Central Vietnam: Implications from local stakeholder interviews. International Conference on Resource Sustainability, August 2023, Guildford, UK. ※Best Young Scientist Oral Presentation Award (3rd)

Mohammed, S., & Kaida, N. (2023). Opportunities and challenges for circular economy in Maldives: A stakeholder analysis of the informal e-waste management in the Greater Male' Region. International Conference on Resource Sustainability, August 2023, Guildford, UK.

小濱幸平・甲斐田直子 (2023). 肉類消費抑制と代替肉普及のためのコミュニケーション方策の効果検証, 2023年度環境情報科学研究発表大会, 2023年11月.

森下陽平・甲斐田直子・甲斐田幸佐・近井学・佐藤洋 (2024). 騒音迷惑度と心身の健康の関係性: 高齢者に着目して, 日本環境心理学会第17回大会, 白鷗大学, 2024年3月.

糸井風音・甲斐田直子・Azrina Sobian・Norhayati Abdullah (2024). プラスチック汚染緩和行動と宗教的自然観の関係性: マレーシアを対象に, 日本環境心理学会第17回大会,

白鷗大学, 2024年3月.

◆ その他:

International Conference on Resource Sustainability (icRS) Best Young Scientist Oral Presentation Award (3rd) (Hue Thi Dang Nguyen, 2023年8月, 学会口頭発表の学生表彰)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

マレーシア日本国際工科院 Japanese University Consortium 防災小委員会事務局

筑波大学マレーシアオフィス運営委員会委員

システム情報系長特別補佐

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

社会工学類: 卒業生連絡委員会、運営委員会、3年生クラス担任

社会工学 (院): 運営委員会

環境科学 (院): SUSTEP 英語教育プログラム委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

茨城県環境審議会委員 (廃棄物処理計画策定小委員会副委員長)

神栖市廃棄物減量等推進審議会

氏名	佐野 幸恵	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- 学類：ネットワーク科学、数学リテラシー1、プログラミング入門 A、プログラミング入門 B、プログラミング入門、学問への誘い(社会工学類担当分)
- 大学院：社会シミュレーション

◆ 指導学生数：12 人

- 社会工学類 4 人
- 社会工学学位 P (前期) 4 人・サービス工学学位 P (前期) 3 人
- 社会工学学位 P (後期) 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 科学研究費 基盤研究(B)「包摂的コミュニティ創生のためのデータ駆動型数理基盤の研究」(代表)
- 科学研究費 基盤研究(B)「学際的エビデンスに基づく超高齢社会のモビリティ支援とアクティブ・エイジングの推進」(分担)
- 科学研究費 基盤研究(B)「アカウンティング・インフォマティクス (会計情報科学) の基盤研究」(分担)
- 科学研究費 基盤研究(B)「勤労世代の風疹ワクチン接種の普及を目的とした実装研究」(分担)
- 株式会社野村総合研究所「Web 空間上の集合的感情の可視化に関する研究」(共同研究)
- サイバーエージェント株式会社「メディアサービスにおけるユーザの行動ログに関する研究」(共同研究)

◆ 著書・論文等：

1. M. Takeuchi and Y. Sano,
“Burstiness of human physical activities and their characterization,” *Journal of Computational Social Science*, <https://doi.org/10.1007/s42001-024-00247-w> (2024).
2. Y. Sano and A. Hori,
“12-year observation of tweets about rubella in Japan: A retrospective infodemiology study,” *PLoS ONE*, vol.18, article number e0285101 (2023).

◆ 学会発表等：

1. 佐野幸恵, “ウェブにおける人間行動と社会物理学,”
統数研共同研究集会兼 第4回 TREFOIL 研究会～高次元非線形構造が紡ぎ出す数理・情報・物理の融合研究～, 理化学研究所 革新知能統合研究センター(AIP), 2024年2月21, 22日. (招待講演)
2. Y. Sano, “Bridging physics and society: A case study of collective memory dynamics by socio-econophysics approach,” RIKEN iTHEMS Colloquium, 理化学研究所 数理創造プログラム (iTHEMS), 2023年11月20日. (招待講演)
3. 佐野幸恵, “社会経済物理で読み解くウェブ上での人間行動,” 明治大学 MIMS 共同研究集会 現象数学のダイバーシティ, オンライン, 2023年7月3日. (招待講演)
4. Y. Sano, N. Igarashi, Y. Okada, and H. Sayama, “A two-phase mathematical model of collective memory decay,” Statphys28 (28th International Conference on Statistical Physics), 東京大学, 2023年8月7-11日.
他 16 件

◆ その他：

- 2023年度スポーツデータサイエンスコンペティション 入賞【サッカー部門】
竹内颯汰, 大友直史, 福崎 竜之輔, 内藤大貴, 佐野幸恵, 「動的ネットワークマーカーを用いたチャンスの予兆検出」 (指導学生チームの受賞)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

- 社会工学類 2年クラス担任
- 専攻 入試実施委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本物理学会：
 - 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 オブザーバ
 - 応用物理学会 春季学術講演会一般公開特別シンポジウムにて招待講演「大規模アンケートのみどころとは？：元解析メンバーとしての経験より」（2024年3月25日、東京都市大学・ハイブリッド開催）

- ◆ 高大連携関連：
 - 茨城県 理工系進路選択応援シンポジウム 基調講演「迷ったら理工系へ！軽い気持ちで行ってみよう」（2024年2月18日）オンライン配信
 - 茨城県立竹園高校 出張講義「SNSの科学～フェイクニュースに騙されないために～」（2023年11月8日）

- ◆ その他：
 - 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員
 - 茨城県南生涯学習センター 運営協議会 委員
 - 茨城県 大学等地域連携委員会 委員
 - 茨城県土浦市 まち・ひと・しごと創生有識者会議 副委員長
 - つくば市空き家対策協議会 委員
 - つくば市建築審査会 委員

氏名	高野 祐一	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化 金融工学 機械学習		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 会計と経営／ファイナンス／経営と機械学習／問題発見と解決／ファーストイヤーセミナー／学問への誘い

大学院 資産評価論／技術経営

◆ 指導学生数：合計 20 人

社会工学類 4 人

博士前期課程 9 人 (社会工学学位 P) 2 人 (サービス工学学位 P)

博士後期課程 5 人 (社会工学学位 P)

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究 (C) 「混合整数最適化による次元縮約法の最良スパース推定」 (代表)
2. 科学研究費 基盤研究 (B) 「リーマン多様体上の制約付き最適化問題に対する汎用アルゴリズムの理論と実装」 (分担)
3. 科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実応用に向けた説得力のある手法開発」 (分担)
4. 科学研究費 基盤研究 (C) 「プロジェクトの見積り戦略と遂行体制・契約方式の研究」 (分担)
5. 共同研究 (日産自動車 株式会社) 「タイヤの性能指標の予測モデルに関する研究」 (代表)
6. 共同研究 (株式会社 メルカリ) 「マーケティング施策の効率化に関する研究」 (代表)
7. 共同研究 (株式会社 ルリアン) 「相続工学に関する共同研究」 (分担)

◆ 著書・論文等：

1. 川上雄大, 奈良岡勇, 松本拓見, 安元優太, 朝倉希美, 椎名萌, 守屋恵瑠萌, 鮎川矩義, 高野祐一: EC サイトにおける利用者属性データの欠損値補完. オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学, 69 (2024), 82--88.

2. S. Ikeda, N. Nishimura, N. Sukegawa, and Y. Takano: Prescriptive price optimization using optimal regression trees. *Operations Research Perspectives*, 11 (2023), 100290.
3. N. Nishimura, N. Sukegawa, Y. Takano, and J. Iwanaga: Predicting online item-choice behavior: A shape-restricted regression approach. *Algorithms*, 16 (2023), 415.
4. 池田春之介, 朝倉希美, 西村直樹, 高野祐一: 構造的正則化処方分析による旅行パックの価格最適化. *オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学*, 68 (2023), 485-490.
5. K. Kobayashi, Y. Takano, and K. Nakata: Cardinality-constrained distributionally robust portfolio optimization. *European Journal of Operational Research*, 309 (2023), 1173-1182.
6. Y. Takano and J. Gotoh: Dynamic portfolio selection with linear control policies for coherent risk minimization. *Operations Research Perspectives*, 10 (2023), 100262.
7. Watanabe, R. Tamura, Y. Takano, and R. Miyashiro: Branch-and-bound algorithm for optimal sparse canonical correlation analysis. *Expert Systems with Applications*, 217 (2023), 119530.
8. 吉瀬章子, 高野祐一, 張凱: モビリティシェアリングサービスの運用を最適化する. *スマートモビリティ時代の地域とクルマ: 社会工学アプローチによる課題解決*, 学芸出版社 (2023), 42-61.

◆ 学会発表等:

1. 高野祐一: 相続工程の長期化リスク採点システム. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 第 89 回シンポジウム, 筑波大学 筑波キャンパス 春日講堂, 2024 年 3 月 6 日.
2. 高野祐一: 混合整数線形最適化によるカーネル SVM の変数選択. 日本オペレーションズ・リサーチ学会「最適化の理論とアルゴリズム (RAOTA)」研究部会, 国立情報学研究所, 2024 年 1 月 27 日.
3. 池田春之介, 西村直樹, 鮭川矩義, 高野祐一: 最適決定木を用いた処方的価格最適化. 数理最適化と機械学習の融合に関する研究部会 (MOAI Forum), オンライン開催, 2023 年 8 月 3 日.

◆ その他:

1. 高野祐一, 池田春之介, 椎名萌, 守屋恵瑠萌, 伊熊大貴, 板山咲穂, 上原祐輝, 菊池明飛, 武井終悟, 竹内崇貴, 深谷悠人, 柳智也: 令和 5 年度 データ解析コンペティション 日経イノベーション・ラボ賞. 日本経済新聞社, 2024 年 3 月 15 日.
2. 高野祐一, 池田春之介, 椎名萌, 守屋恵瑠萌, 伊熊大貴, 板山咲穂, 上原祐輝, 菊池明飛, 武井終悟, 竹内崇貴, 深谷悠人, 柳智也: 令和 5 年度 データ解析コンペティション 殊勲賞. 日本オペレーションズ・リサーチ学会「ビッグデータを用いたマーケティング分析」研究部会, 2024 年 2 月 24 日.

3. 高野祐一：令和4年度 システム情報系 教育貢献賞. 筑波大学. 2023年4月7日.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 1. 人工知能科学センター 広報委員長
 2. 総合学域群 アカデミックアドバイザー
 3. 全学学群教職課程委員
 4. 総合学域群 第2類7クラス担任
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 1. 社会工学類 カリキュラム委員
 2. 社会工学／サービス工学学位プログラム 広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 1. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関誌編集委員
 2. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2024年春季研究発表会 実行委員

氏名	フンドック トゥアン	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率論, 応用確率過程, システムのモデル化・性能評価		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

応用確率論, 社会工学演習, 社会と最適化, 情報ネットワーク, 社会工学のための数学, 数理工学モデル化演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 6人

社会工学専攻 6人 (博士後期課程 2名, 修士課程 4名)

2. 研究

1. 当該年度の研究活動概要：

2021年4月～2025年3月： 処研究課題番号：21K11765 日本学術振興会/科研費 基盤研究(C), 研究課題「理能力可変型待ち行列モデルの理論的発展と大規模省エネデータセンターへの応用」代表

2. 著書・論文等：

※査読付学術雑誌掲載論文、著書（専門書）、解説論文・総説論文などの実績

査読付き論文（学術雑誌掲載論文、国際会議論文、専門書の章）

1. A. Nakamura and T. Phung-Duc, “Exact and Asymptotic Analysis of Infinite Server Batch Service Queues with Random Batch Sizes,” Queueing Systems: Theory and Applications, Vol. 106, pp. 129--158, 2024. **査読有り**
2. M. Sato, K. Kawamura, K. Kawanishi and T. Phung-Duc, “Modeling and Performance Analysis of Hybrid Systems by Queues with Setup Time,” Performance Evaluation, Vol. 162, Article no. 102366, 2023. **査読有り**
3. A. Nazarov, T. Phung-Duc, S. Paul and M. Morozova, “Scaling limits of a tandem queue with two infinite orbits,” Mathematics, Vol. 11, No. 11, Article no. 2454, 2023. **査読有り**
4. A. Nakamura and T. Phung-Duc, “Equilibrium analysis for batch service queueing

- systems with strategic choice of batch size,” Mathematics, Vol. 11, No. 8, Article no. 3956, 2023. 査読有り
5. A. Nakamura, T. Phung-Duc, “A moment approach for a conditional central limit theorem of infinite-server queue: a case of $M/M^X/\infty$ queue,” Mathematics, Vol. 11, No. 9, Article no. 2088, 2023. 査読有り
 6. A. Nakamura and T. Phung-Duc, “Equilibrium Analysis and Social Optimization of a Selectable Single or Time-Based Batch Service,” Proceedings of the 13th International Conference on Operations Research and Enterprise Systems ICORES, pp. 92--100, Online & Rome, Italy, February 24-26, 2024. 査読有り
 7. K. Wakigami, F. Machida and T. Phung-Duc, “Reliability and Performance Evaluation of Two-input Machine Learning Systems,” Proceedings of 28th IEEE Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing (PRDC 2023) 24-27, OCT, 2023, Singapore, Singapore (Physical+Virtual) (PRDC 2023). 査読有り
 8. T. Le-Anh, K. Ishiguro and T. Phung-Duc, “Performance Analysis of Multi-server Queueing Systems with Batch Services and Setup Times,” In: Iacono, M., Scarpa, M., Barbierato, E., Serrano, S., Cerotic, D., Longo, F. (eds) Computer Performance Engineering and Stochastic Modelling. EPEW ASMTA 2023. Lecture Notes in Computer Science, vol 14231, pp. 111-122, Springer, Cham 2023. 査読有り
 9. K. Abe and T. Phung-Duc, “Asymptotic analysis of modified Erlang-B system with sensing time and stochastic loss of secondary users,” In: E. Hyttiä, K. Veeraruna (Eds.) Performance Evaluation Methodologies and Tools (15th EAI International Conference, VALUETOOLS 2022, Virtual Event, November 2022, Proceedings), LNICST, volume 482, 2023. 査読有り
 10. A. Nakamura and T. Phung-Duc, “Strategic customer behaviors in observable multi-server batch service queueing systems with shared fee and server maintenance cost,” In: E. Hyttiä, K. Veeraruna (Eds.) Performance Evaluation Methodologies and Tools (15th EAI International Conference, VALUETOOLS 2022, Virtual Event, November 2022, Proceedings), LNICST, volume 482, 2023. 査読有り
 11. S. Paul, A. Nazarov, P. Phung-Duc, K. Shulgina, O. Lizyura and D. Shashev, “Cyclic Retrial Queue for Building Data Transmission Networks,” In: E. Hyttiä, K. Veeraruna (Eds.) Performance Evaluation Methodologies and Tools (15th EAI International Conference, VALUETOOLS 2022, Virtual Event, November 2022, Proceedings), LNICST, volume 482, 2023. 査読有り

3. 解説論文

1. Nguyen Quoc Hung, Phung-Duc Tuan, 両サイド型待ち行列における戦略的な挙動 — 多集団ゲーム理論的な解析 —, オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学, Vol. 68, No. 10, pp. 514--520, 2023年10月.

4. 国内学会発表等:

1. 古山 雄晟, 中村 彩音, フンドック トゥアン, 単独サービス客と集団サービス客を区別した待ち行列モデルの定常解析, 第40回(2023年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 高知城ホール&オンライン, 2024年1月17-19日.
2. Thu Le-Anh, Tuan Phung-Duc, Queueing Analysis of Server Farms with Batch Services and Setup Times, 第40回(2023年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 高知城ホール&オンライン, 2024年1月17-19日.
3. Ayane Nakamura, Tuan Phung-Duc, Fair and efficient sharing: dynamic pricing control in batch service system with strategic customers, 第40回(2023年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 高知城ホール&オンライン, 2024年1月17-19日.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
 - 日越大学公共政策プログラム運営委員会委員 (全学)
 - 留学生委員 (研究群)
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
 - 学生・留学生相談委員長
 - 大学院入試委員
 - 4年学生担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動:

学術論文誌の編集員

1. Associate Editor for Queueing Models and Service Management (QMSM) from May 2017~現在
2. Asssociate Editor for Journal of the Operations Research Society of Japan from June 2019~現在
3. Editor for MDPI Mathematics from March 2021~現在

国際会議のプログラム委員 (Technical Program Committee)

1. Technical Programme Committee of 19th European Performance Engineering Workshop (EPEW2023), 20-23 Jun 2023 Florence (Italy).
2. Technical Programme Committee of The 27th International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications (ASMTA 2023), 20-23 Jun 2023 Florence (Italy).

3. Technical Programme Committee of 12th International Symposium on Information and Communication Technology (SOICT 2023), 7-8 December 2023, Ho Chi Minh City, Vietnam.

国内学会・研究集会の委員

1. 第40回（2023年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

氏名	梅本 通孝	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
専攻（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市・地域防災		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 都市防災計画/都市・地域科学演習/都市計画事例講義
 - 大学院： 都市リスクマネジメント論/レジリエント都市計画演習
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人
 - リスク・レジリエンス工学学位プログラム 8人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 河川氾濫時の広域避難効果に関する研究
 - 災害応急対応期の自治体間連携に関する研究
 - 被災地における非物的支援に関する研究
 - 中国中山間地域におけるコミュニティ防災に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
 - 蒲倉光, 梅本通孝：全国市区町村における水害時越境避難対策の検討・準備の動向，地域安全学会論文集, No.44, <https://iss.jp.net/iss-site/wp-content/uploads/2024/03/ISSS-2023-015.R2-2.pdf>, 2024.3
 - 齊藤一真, 梅本通孝：先進国の標準化された危機管理システムの比較と日本への適用可能性の検討，地域安全学会論文集, No.44, <https://iss.jp.net/iss-site/wp-content/uploads/2024/03/ISSS-2023-019.R2-2.pdf>, 2024.3, 2024.3
 - 土橋弘武, 梅本通孝：東京都における大規模水害発生時の効果的な消防団運用に関する研究，地域安全学会論文集, No.43, pp.39-48, 2023.11
 - 浅沼直樹, 梅本通孝：原子力防災のリスクコミュニケーションへの参加促進策としてのメッセージの作成・検証に関する研究，地域安全学会論文集, No.43, pp.275-284, 2023.11
 - 野貴泰, 梅本通孝：メソ・ミクロスケールにおける住宅侵入盗の環境要因に関する系統的レビュー，地域安全学会論文集, No.43, pp.327-336, 2023.11
 - 門倉慧, 梅本通孝：熊本地震後の励まし活動の企画・運営・実施方法に係る知見と課題，災

害情報, No.21-2, 日本災害情報学会, pp.109-120, 2023.7

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究群学務・カリキュラム委員会 委員

システム情報工学研究群 FD 委員会 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 総務委員会 委員長

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 予算委員会 委員

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 教育企画・FD 委員会 委員

リスク・レジリエンス工学学位プログラム R2EC 対応委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

地域安全学会 理事

日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員

地域安全学会論文集 査読者

日本都市計画学会論文集 査読者

日本建築学会論文集 査読者

日本災害情報学会誌 査読者

◆ 学外から委嘱された委員

鳥取県原子力安全顧問

茨城県避難所検証委員会 委員

東京消防庁火災予防審議会 委員

東京消防庁火災予防審議会調査研究委員会 委員

茨城県稲敷市都市計画審議会 会長

茨城県潮来市第2期総合戦略有識者会議 委員

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員, 国際事業委員会書面審査員・書面評価員

◆ 講演等

UMEMOTO, Michitaka, Urban Planning and Disaster Management in Tsukuba Science City, 筑波大学 JST さくらサイエンスプログラム(ペルー), つくば, 2024.2.26

梅本通孝：地域防災と原子力災害対策, 令和5年度鳥取県第3回原子力防災専門研修, 米子市・オンライン, 2024.2.13

氏名	八森 正泰	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 微積分2 (総合学域群) / 微積分3 / 離散数学 / 囲碁で培う思考力 (全学)
大学院 離散数理
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 4人
社会工学専攻 (前期課程) 4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究 (C) 「Nonpure 複体の分割構造を軸とした単体的複体の組合せ構造の探求」 (代表)
基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実応用に向けた説明力のある手法開発」 (分担、代表：繁野麻衣子)
- ◆ 著書・論文等：
Masahiro Hachimori, Yumi Yamada, Some computational studies of the root distribution of Ehrhart polynomials, International Game Theory Review 25 (2023), 2340005, Special Issue on "Computational Operations Research and Algorithmic Game Theory", S.K. Neogy, R.B. Bapat and T. Parthasarathy eds.
翻訳：『代数的・幾何的アプローチによる離散最適化入門』 Jesús A. De Loera, Raymond Hemmecke, Matthias Köppe 著, 佐久間雅, 富安亮子, 八森正泰, 脇克志 訳 (共立出版 2023).
- ◆ 学会発表等：
八森正泰, 「Nonpure な単体的複体の分割の階層と h-triangle の非負性」, 2023 年度応用数合同研究集会, 龍谷大学, 2023 年 12 月 14-16 日.
八森正泰, 「Graded poset の equatorial Ehrhart 多項式について」, 軽井沢グラフと解析研究集会 2023, 日本大学軽井沢研修所, 2023 年 9 月 30-10 月 2 日.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学計算機システム仕様策定委員
全学計算機システム導入WG
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 コンピュータ委員，教学マネジメント委員，4年次クラス担任，卒業論文梗概集編集委員長，社会工学類長候補者意向調査管理委員会委員長
大学院 コンピュータ委員，論文委員，数理の交差点委員会(シス情数学域交流窓口)

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Graphs and Combinatorics 誌 Editorial Board
組合せ数学セミナー（COMA ゼミ）幹事
JCCA メーリングリスト&ホームページ管理
日本数学会 応用数学賞委員

氏名	原田 信行	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 統計学／金融論
大学院 企業評価論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人
社会工学学位プログラム 2人

2. 研究

3. 学内運営

- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学学位プログラム 教学マネジメント委員会委員
社会工学類 教学マネジメント委員会委員
社会工学類 卒業生連絡委員会委員
令和5年度筑波大学システム情報系教育貢献賞

氏名	藤井 さやか	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任 BPGI 講義担当		
研究分野	都市計画, 住環境整備, まちづくり法制		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- 学類 都市計画入門／土地利用計画／住環境計画実習／現代まちづくり論／都市計画事例講義／Instruction for the Seminars on Global Issues A-II and the Practical Training on Global Issues A-II／ファーストイヤー 세미나／学問への誘い／データサイエンス
- 大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップ I・II／社会工学ファシリテーター育成プログラム I・II (国際交流ワークショップ A・B／まちづくりワークショップファシリテーター研修／つくば市 PJ 型共同研究実習)

◆ 指導学生数：

- 社会工学類 3人
- 社会工学学位プログラム博士前期 8人、博士後期 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 令和 5-8 年度科学研究費・基盤研究 (B) (代表), 「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」の形成実態と展開可能性」(23H01575→23K26269)
- 令和 4-6 年度科学研究費・挑戦的研究 (萌芽) (代表), 「スペースシェアリングを活用した高経年戸建住宅地再生・継承モデルの構築」(22K18839)
- 令和 2-5 年度科学研究費・基盤研究 (B) (分担) (代表平井太郎), 「超高層住宅の「二重の老い」の乗り越えを目指す学際的・国際的研究」(20H01562)
- 2022-2024 年度公益社団法人日本都市計画学会・研究交流事業「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」に関する研究会」
- 2023 年度学術指導・株式会社 WaCreation (代表), 「地域社会への医療健康福祉サービス提供モデルの検討」, 直接経費 20 万円 (6 ヶ月)
- 2023 年度学術指導・墨田区 (代表), 「錦糸町駅周辺地区まちづくり検討に関する学術指導」, 直接経費 68.45 万円 (9 ヶ月)

- 2023 年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト（代表）, 「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」
- ◆ 著書・論文等：
 - 瀬川遥子, 島田由美子, 藤井さやか: 転換期にある筑波研究学園都市の地区計画が空間資源継承に果たす役割と課題, 都市計画論文集, 58-3, pp.1187-1194, 2023-10-25 (査読有)
 - Jooho Park, Sayaka Fujii: Civic Engagement in a Citizen-Led Living Lab for Smart Cities: Evidence From South Korea, Urban Planning, Vol.8, Issue2, pp.93-107, <https://doi.org/10.17645/up.v8i2.6361>, 2023-4 (査読有)
 - 藤井さやか: column3 つくばのスマートシティ, 大澤義明編著『スマートモビリティ時代の地域とクルマ』(158p), p.101, 学芸出版社, 2023-09.
 - 藤井さやか: 今後の地域づくりへの期待, 人と国土 21, 49-5, p.44, 2024-01.
 - 品川 万里, 北村 正平, 瀧澤 智子, 玉井 敏久, 藤井 さやか: 市長座談会 職員の活躍を願う市長の思いと取り組み, 市政, No.72-5, pp.6-11, 2023-05.
- ◆ 学会発表等：
 - 瀬川遥子, 島田由美子, 藤井さやか: 転換期にある筑波研究学園都市の地区計画が空間資源継承に果たす役割と課題, 都市計画論文集, 58-3, pp.1187-1194, 2023-10-25.
- ◆ その他：
 - コーディネーター, 「危険な空き家の解決から始めるまちづくり：行政・事業者・市民の連携による取り組みと知恵」, 日本不動産学会シンポジウム（令和5年度科学研究費助成事業）, 2024年2月22日, アットビジネスセンター東京駅八重洲通り（ハイブリッド方式）.
 - 講演者, 「移民大国になりつつある日本の多文化共生への道筋：多様性を包摂しエンパワメントするまちづくり」, 第18回デジタルデモクラシーと政治的不平等プロジェクト（DDPI）セミナー, 2023年5月10日, オンライン開催.
 - 趣旨説明, 「農を介するつながる場」, 日本都市計画学会研究交流事業研究交流分科会『空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」に関する研究会』, 2024年1月9日, co-en.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 全学：学生宿舎リニューアル検討委員会委員／学生宿舎リニューアル計画及び未来社会デザイン棟（仮称）作業部会構成員
 - システム情報工学研究群：システム情報工学研究群入試実施委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学・サービス工学学位プログラム：入試実施委員会副委員長

- 社会工学類：1年生担任／建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 日本都市計画学会学術委員会委員
- 日本建築学会住宅地計画小委員会幹事
- 日本不動産学会事業企画委員会委員
- 土木学会景観・デザイン委員会委員
- 日本住宅協会 編集アドバイザー
- 一般財団法人住総研 郊外住宅地のネイバーフッドマネジメント研究会
- 日本都市計画学会会長アドバイザー会議
- 日本建築学会住宅地計画小委員会委員
- 日本不動産学会事業企画委員会委員

◆ 講師等：

- 話題提供，「遠隔就労が拓く新たなまちと暮らし」，Innovation Meetup vol.2『遠隔就労の働きがい』，2023年3月28日，Inspired.Lab.
- 話題提供「これからの錦糸町のまちづくりー学生の視点からー」，『錦糸町まちづくり勉強会』，2024年2月5日，オンライン開催.
- 講演，「住宅地のこれからと地区のまちづくりルールを考える」，『こま武蔵台まちづくり勉強会』，2024年1月27日，こま武蔵台公民館.
- コーディネーター，「つくば駅周辺まちづくりワークショップ」，2024年1月14日及び16日，co-en.
- モデレーター，「社会のあり方を根本から変える都市づくりへのスタートアップの挑戦-つくばスーパーサイエンスシティ構想-」，2023年12月7日，CIC Tokyo.
- コメンテーター，「墨田区錦糸町駅周辺まちづくりワークショップ」，2023年7月9日，9月3日，11月5日，すみだ産業会館.
- 登壇者，「空き家活用による外国人支援を含めた居住支援型の復興・コミュニティづくり」，2023年10月8日，明治大学.
- 話題提供，「移動・まちづくり各論」，『気候市民会議つくば』，2023年10月1日，つくば市役所.
- 講演，「多様性を包摂し活力に変えるまちづくり」，『都市の未来を語る市長の会』，2023年9月28日，日本都市センター会館.
- コーディネーター，「市政・市長座談会 職員の活躍を願う市長の思いと取り組み」，2023年4月12日，全国都市会館.

◆ 学外委員：

- 内閣府総合特別区域評価・調査検討会委員／内閣府総合特別区域の専門家評価検討会

委員

- 国土交通省集団規定に係る基準検討委員会委員／国土交通省国土政策局地域振興課地域づくり表彰審査会委員／国土交通省かわまち大賞審査委員会委員／国土技術政策総合研究所評価委員会第二部会委員
- 東京都開発審査会委員／茨城県都市計画審議会委員／茨城県開発審査会委員／茨城県つくばエクスプレス沿線地区土地処分委員会特別委員／茨城県島名・福田坪特定土地地区画整理審議会／茨城県上河原崎・中西特定土地地区画整理審議会／千葉県県土整備公共事業評価審議会委員／柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会委員
- 板橋区都市計画審議会委員／板橋区老朽建築物等対策協議会会長／アーバンデザインセンター高島平専門アドバイザー／墨田区都市計画審議会委員／墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会専門委員／墨田区建築審査会委員／大田区まちづくり認定審査会副会長／目黒区都市計画審議会委員／目黒区景観審議会委員／文京区住宅政策審議会委員／文京区住宅政策審議会小委員会委員
- つくば市スーパーシティアーキテクト会議構成員／つくば市第3次都市計画マスタープラン・第2次立地適正化画策委員会委員／つくば市大規模事業評価委員会委員／つくば市公有地利活用方策検討会常任委員／つくば市先端的サービス実装推進拠点基本調査委託公募型プロポーザル選定委員会委員／つくば市産業用地可能性調査業務委託に係る公募型プロポーザル候補者選定委員会委員／つくば市都市計画課まちづくり専門家アドバイザー／つくば市スマートシティ協議会インフラ・都市デザイン分科会つくば中心市街地スマートプランニング研究体メンバー
- 土浦市公共施設再編・再配置計画策定委員会副会長／守谷市空家等対策協議会委員会会長／常総市都市計画マスタープラン策定委員会委員／常総市都市計画マスタープラン策定庁内会議座長／八潮市公共施設マネジメント推進委員会副委員長
- 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会住宅・都市分科会委員
- 公益社団法人 UWC 日本協会派遣奨学生選考委員

氏名	藤井 さやか	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任 BPGI 講義担当		
研究分野	都市計画, 住環境整備, まちづくり法制		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- 学類 都市計画入門／土地利用計画／住環境計画実習／現代まちづくり論／都市計画事例講義／Instruction for the Seminars on Global Issues A-II and the Practical Training on Global Issues A-II／ファーストイヤー 세미나／学問への誘い／データサイエンス
- 大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップ I・II／社会工学ファシリテーター育成プログラム I・II (国際交流ワークショップ A・B／まちづくりワークショップファシリテーター研修／つくば市 PJ 型共同研究実習)

◆ 指導学生数：

- 社会工学類 3人
- 社会工学学位プログラム博士前期 8人、博士後期 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 令和 5-8 年度科学研究費・基盤研究 (B) (代表), 「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」の形成実態と展開可能性」(23H01575→23K26269)
- 令和 4-6 年度科学研究費・挑戦的研究 (萌芽) (代表), 「スペースシェアリングを活用した高経年戸建住宅地再生・継承モデルの構築」(22K18839)
- 令和 2-5 年度科学研究費・基盤研究 (B) (分担) (代表平井太郎), 「超高層住宅の「二重の老い」の乗り越えを目指す学際的・国際的研究」(20H01562)
- 2022-2024 年度公益社団法人日本都市計画学会・研究交流事業「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」に関する研究会」
- 2023 年度学術指導・株式会社 WaCreation (代表), 「地域社会への医療健康福祉サービス提供モデルの検討」；直接経費 20 万円 (6 ヶ月)
- 2023 年度学術指導・墨田区 (代表), 「錦糸町駅周辺地区まちづくり検討に関する学術指導」；直接経費 68.45 万円 (9 ヶ月)

氏 名	山本 幸子	職 名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担		
学位プログラム (博士前期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	建築計画, 地域計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 設計演習 I / 住環境計画概論 / 都市計画入門

大学院 住環境計画論 / 社会工学ワークショップ I・II / 社会工学ファシリテーター育成プログラム I・II / 社会工学ファシリテーター育成プレプログラム I・II・III・IV / Environmental Analysis and Planning / Introduction to Environmental Sciences / Exercises in Environmental Sciences

◆ 指導学生数：

社会工学類 3名

社会工学学位プログラム博士前期課程 8名 博士後期課程 1名

環境科学学位プログラム博士前期課程 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 1) 科学研究費基盤研究 C, 代表者：山本幸子, 農村移住者の宿泊滞在施設運営と地域交流活動による新たな都市農村交流の展開可能性
- 2) 石岡市受託研究, 代表者：藤川昌樹, 研究題目：石岡市看板建築及び里山景観等調査研究
- 3) 関彰商事株式会社共同研究, 代表者：大澤義明, 研究題目：茨城版SDGsを推進する産学研究

◆ 著書・論文等：

- 1) 陳 星, 山本幸子, 中園真人：北関東地域における高齢者通所介護サービスの需給構造と将来推計(その1):利用者数と供給量を指標とした市場均衡推移の県別分析(2000～2019), 日本建築学会計画系論文集, 第 815 号, pp.76-86, 2024.2

◆ 学会発表等：

- 1) 石井裕樹, 山本幸子, 菅俣直也, 大澤義明: 農村集落の電力オフグリッド化の可能性に関する研究—石岡市上山集落を対象として—, 農村計画学会秋季大会発表要旨集,

P8, ポスターセッション, 2023.12.10, 茨城大学

◆ その他:

- 1) 「脱炭素化による地方創生の社会実装-筑波大学と関彰商事との共同研究, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2024 年春季シンポジウムでの事例発表, 筑波大学筑波キャンパス 春日エリア, 2024 年 3 月 6 日

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

- 1) 社会工学類カリキュラム委員
- 2) 社会工学専攻施設委員
- 3) 社会工学類建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

- 1) 石岡市複合文化施設整備審議会委員
- 2) 土浦市住生活基本計画策定委員会会長
- 3) いばらき古民家活用協議会会長
- 4) 行方市過疎地域持続的発展計画策定検討委員会委員
- 5) 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
- 6) 石岡市協働のまちづくり推進委員会
- 7) 茨城県古民家活用合同研究会座長
- 8) 石岡市景観調査委員会委員
- 9) 土浦市空家等対策協議会委員長
- 10) 石岡市空家等対策協議会委員
- 11) 石岡市都市計画審議会委員
- 12) つくば市ホテル等建築審議会委員
- 13) 日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議支援事業部会委員
- 14) 日本建築学会農村計画本委員会委員
- 15) 日本建築学会住宅系研究報告会運営代表幹事

氏名	和田 健太郎	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通工学, 土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通計画, 微積分 1, 都市計画演習, 都市数理, 線形代数 3
大学院 モビリティイノベーションの社会応用

◆ 指導学生数：

社会工学類 4名
社会工学学位プログラム 5名
サービス工学学位プログラム 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会 科学研究費助成事業

- ・ 高速道路単路部の交通流理論の検証と交通制御システムの戦略的デザイン, 基盤研究 (B) (研究代表)
- ・ 高速車両連結技術を前提とした都市鉄道の近未来型運行スキーム, 挑戦的研究 (萌芽) (研究代表)
- ・ MaaS+CV 時代の次世代交通システムに向けたインフラと制度の設計, 基盤研究 (A) (分担, 代表者: 井料隆雅)
- ・ 交通・物流システム効率化のための市場型マッチング・システムの設計・評価法構築, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 赤松隆)
- ・ 限定合理的個人を仮定した大規模社会システムの動的制度設計, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 澤亮治)

◆ 著書・論文等：

- Rikuto Shigemi, Hiroyasu Ando, **Kentaro Wada** and Risa Mukai: Predicting traffic breakdown in expressways using linear combination of vehicle detector data, *Nonlinear Theory and Its Applications*, IEICE, Vol.14, No.2, pp.416–427, 2023.
- **和田健太郎**, 岩見悠太郎：テレワークおよび時間集積の経済・不経済を考慮した通勤均衡モデル, *土木学会論文集 D3 (土木計画学)*, Vol.78, No.5, pp.I 899-I 909, 2023.
- 金崎圭吾, **和田健太郎**：連続体交通流モデルに基づく高速道路サグ・トンネル部における渋滞発生確率の解析, *土木学会論文集 D3 (土木計画学)*, Vol.78, No.5, pp.I 911-I 918, 2023.
- 甲斐慎一郎, **和田健太郎**, 堀口良太：追従モデルによる高速道路サグ部の Capacity Drop 現象の再現, *土木学会論文集 D3(土木計画学)*, Vol.78, No.5, pp.I 963-I 971, 2023.

◆ 学会発表等：

国際学会

- Shin-ichiro Kai, **Kentaro Wada**, Ryota Horiguchi and Jian Xing: Estimating traffic capacity in sag sections using continuum traffic flow theory, *The 9th International Symposium on Transportation Data & Modelling (ISTDM2023)*, 2023.
- **Kentaro Wada**: Capacity drop phenomenon and countermeasures in Japanese expressways, *The 16th World Conference on Transport Research (WCTR 2023)*, 2023.

国内学会

- 金崎圭吾, **和田健太郎**, 西田匡志, 平井章一, 寺田弘明：音声による速度回復情報提供の交通性能改善効果の持続性に関する分析, *交通工学研究発表会論文集*, Vol.43, pp.189-195, 2023.
- 梅村悠生, **和田健太郎**：自動運転車両の速度制御を考慮した系統信号制御に関する考察, *交通工学研究発表会論文集*, Vol.43, pp.449-456, 2023.
- 石丸真也, 浅井遼馬, 森田泰智, 日比野直彦, **和田健太郎**：鉄道新線整備における資金調達の仕事の考察, *土木計画学研究・講演集*, Vol.68, 27-06 (CD-ROM), 2023.
- 飯村直紀, **和田健太郎**：車両軌跡データに基づく高速道路ボトルネックの交通容量推定, 第 21 回 ITS シンポジウム, 1-A-06 (CD-ROM), 2023.
- 周毅愷, **和田健太郎**：シェア型自動運転時代のマーケット型交通渋滞マネジメント法, 第 21 回 ITS シンポジウム, 3-A-07 (CD-ROM), 2023.
- 梅村悠生, **和田健太郎**：自動運転車両の速度制御を考慮した系統信号制御の分析, 第 21 回 ITS シンポジウム, 4-B-09 (CD-ROM), 2023.

◆ その他：

講演等

- ・ 和田健太郎：様々なボトルネックと交通流現象解析，第 107 回交通工学講習会（東京），内幸町ホール，2023 年 7 月 13 日。
- ・ 和田健太郎：高速道路サグ・トンネル部における CapacityDrop 現象—理論・実証・制御—，交通工学研究会論文賞 受賞講演，日本大学理工学部駿河台キャンパス，2023 年 8 月 8 日。
- ・ 和田健太郎，甲斐慎一郎：理論を使うと見えてきた！本当のボトルネックの位置とそこで起きている交通現象とは？，第 5 回 JSTE シンポジウム 企画セッション，アオーレ長岡，2023 年 11 月 30 日。
- ・ 和田健太郎：高速道路サグ・トンネル部における Capacity Drop 現象とその制御，ITS に関する研究懇談会（東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター 特別研究会），東京大学 生産技術研究所，2024 年 3 月 19 日。

受賞（指導学生も含む）

- ・ 交通工学研究会論文賞，交通工学研究会，2023 年 6 月。
- ・ 岸川知樹，学生優秀論文，日本鉄道サイバネティクス協議会，2023 年 11 月。
- ・ 平山裕紀人，優秀同窓会賞，筑波大学社工 都市計画同窓会，2024 年 2 月 18 日。
- ・ 岸川知樹，リーダー賞，筑波大学 社会工学学位プログラム，2024 年 3 月。

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・ 社会工学類 入試実施委員
- ・ 社会工学/サービス工学学位プログラム カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- ・ Editorial Board, International Journal of Intelligent Transportation Systems Research
- ・ 委員，鉄道事業の事業評価に係る勉強会，運輸総合研究所
- ・ 委員，JSTE シンポジウム運営小委員会，交通工学研究会
- ・ 委員，高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究会，高速道路調査会
- ・ 副会長，筑波山周辺渋滞対策協議会，茨城県

- 委員, 今後の交通管制のあり方に関する調査研究に係る検討委員会, UTMS 協会
- 委員, 国道 6 号小美玉道路検討会, 国土交通省関東地方整備局
- 委員, 新規出版企画委員会, 交通工学研究会
- 委員, 首都高の将来料金等研究会, 首都高速道路株式会社
- 委員, 自主研究「平面交差の計画・設計・制御の研究」, 交通工学研究会
- 委員, 道路交通技術必携改訂分科会, 交通工学研究会
- 代表, 自主研究「高速道路単路部の渋滞現象記述理論の実務への応用」, 交通工学研究会
- 委員, デジタル化タスクフォース, 交通工学研究会
- 会長, 石岡小美玉スマートインターチェンジ地区協議会, 石岡市
- 幹事, 交通技術委員会, 阪神高速道路株式会社
- 委員, 中央道渋滞対策検討会, 中日本高速道路株式会社八王子支社
- 委員, 信号機ガイドブック出版小委員会, 交通工学研究会
- 幹事, 大会運営小委員会, 土木計画学研究委員会

(以上)

氏名	阿武秀和	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学 専攻		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ミクロ経済学、マーケットデザイン		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：ミクロ経済学, 経済学の数理(以上、学類)、ミクロ経済学, ゲーム理論(大学院)
- ◆ 指導学生数：学類1名、大学院修士4名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究「公平な複数財配分の研究」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
Efficient and strategy-proof cardinal rules on a restricted domain, *Discussion Paper Series at University of Tsukuba*, August 21, 2023.
Note on Gale's conjecture in one-sided matching problems, *Discussion Paper Series at University of Tsukuba*, March 7, 2024.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：研究室配属マッチング委員会、学群入試実施委員会

4. 学外の社会貢献

なし

氏名	牛島 光一	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用計量経済学 (開発、教育、健康)		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：統計学／都市経済学／都市数理／都市・地域科学演習
大学院：経済・政策分析／ファイナンス
- ◆ 指導学生数：
社会工学類：5名
社会工学専攻：博士1名、修士4名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 挑戦的研究 (萌芽) 「衛星画像と機械学習で描くサブサハラ・アフリカの民族優遇と交通インフラ整備の20年」 (代表)
 2. 科学研究費 基盤研究 (B) 「交通と環境に関する新経済地理学的基盤研究」 (分担者)
 3. 科学研究費 基盤研究 (C) 「衛星情報を利用した物流における大気環境改善の評価」 (分担者)
 4. JST 戦略的創造研究推進事業 (さきがけ) 「反実仮想で測る公的資源配分の依怙最良と非効率」 (代表)
- ◆ 著書・論文等：
C. Kang, M. Ota, K. Ushijima: Benefits of Heavy-Duty Diesel Emission Regulations: Evidence from the World's Largest Low Emission Zone, Journal of Environmental Economics and Management, 125:102944, 2024. [SJR2023:2.813]
- ◆ 学会発表等：
 1. 「反実仮想で測る公的資源配分の依怙最良と非効率」, さきがけ「文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創[社会変革基盤] 第3回領域会議, 於新横浜グレイスホテル, 2024年3月7日.
 2. 「機械学習によって構築した予測値パネルデータの信頼性に関する考察」, 第17回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会, 於九州大学, 2024年3月4日.

3. 「歴史データを用いた 政治的利益誘導の検証」, 第 17 回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会, 於 九州大学, 2024 年 3 月 4 日.
4. 「反実仮想で測る公的資源配分の依怙最良と非効率」, さきがけ「文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創[社会変革基盤] 第 2 回領域会議, 於 TKP ガーデンシティ札幌駅前, 2023 年 9 月 26 日.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
 - 社会工学データサイエンス・ケースバンクプロジェクト委員
 - 入試委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動: 経済産業省「発展的政策プロセス実践研修」(2023 年 11 月～2024 年 3 月)

氏 名	折原 正訓	職 名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	企業金融, 税制		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 計量分析システム演習／金融リスク管理論/経済学の実証
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費若手研究「経済環境激変時における社外取締役の機能」（代表）

- ◆ 著書・論文等：

- Orihara, Masanori and Takafumi Suzuki, 2023, “Windfalls? Costs and Benefits of Investment Tax Incentives due to Financial Constraints,” *Journal of Corporate Finance*, 82, 102469
- 折原正訓「内部留保課税」『証券レビュー』64巻3号, 1-8頁, 2024年3月, 日本証券経済研究所
- 折原正訓「岸田政権と株式市場」証券税制研究会編『日本の家計の資産形成—私的年金の役割と税制のあり方』264-287頁, 2023年7月, 中央経済社

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
日本証券経済研究所 証券税制研究会 委員

氏名	木下 陽平	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	測地学、地球物理学、リモートセンシング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 線形代数 2, 線形代数 3, 都市環境評価論, 都市計画マスタープラン演習, 都市計画インターンシップ, BPGI A-I, 都市数理

大学院： リスク・レジリエンス工学学位プログラム演習, レジリエント都市計画演習, リスク工学基礎, リスク・レジリエンス工学学位プログラムグループ PBL 演習, 都市リスクマネジメント論, 災害リスク・レジリエンス論

◆ 指導学生数：

リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士後期課程 1名

リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士前期課程 3名

理工学群社会工学類 2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究「GNSS 観測と気象モデリングの融合による先進的 InSAR 大気補正手法の開発」(代表)

科学研究費 特別研究促進費「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」(分担)

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構委託研究「2023年度 ALOS-4 データ利用検討のための時系列干渉 SAR 解析の高度化等に関する研究」(代表)

一般財団法人リモート・センシング技術センター2023年度研究助成「中央構造線で地震は起こるか?—高精度 InSAR 解析による中央構造線断層帯の運動様式の解明—」(代表)

◆ 著書・論文等：

Y. Kinoshita and R. Furuta, Slow slip event displacement on 2018 offshore Boso

Peninsula detected by Sentinel-1 InSAR time-series analysis with numerical weather model assistance, *Geophysical Journal International*, vol.237, 2024.

◆ 学会発表等：

- 下妻康平, 木下陽平, InSAR 時系列解析を用いた中央構造線での地震間変位検出の試み, JpGU2023, 幕張メッセ, 千葉, 23/05/2023
- 木下陽平, GNSS と全球大気モデルを融合した InSAR 大気遅延補正モデルの開発についての進捗, JpGU2023, 幕張メッセ, 千葉, 24/05/2023
- Yixuan Liu, 木下陽平, 地すべり早期識別のための時系列 InSAR に基づく地表面変位と降水量の関係についての研究, JpGU2023, 幕張メッセ, 千葉, 26/05/2023
- 下妻康平, 木下陽平, ALOS-2 時系列解析に基づく四国東部における中央構造線の地震間変位検出, 日本測地学会第 140 回講演会, 仙台市福祉プラザ, 宮城, 12/10/2023
- 木下陽平, GNSS と全球大気モデルを融合した InSAR 大気補正モデルの開発進捗, 日本測地学会第 140 回講演会, 仙台市福祉プラザ, 宮城, 13/10/2023
- 木下陽平, 2023 年 5 月 5 日に石川県能登地方で発生した M6.5 の地震時における断層すべり分布の InSAR 解析に基づく推定, 日本地震学会 2023 年度秋季大会, パシフィコ横浜, 神奈川, 31/10/2023
- Yohei Kinoshita, Kohei Shimotsuma, Detecting small transient displacements in Japan by SAR time series analysis with atmospheric delay correction, The Joint PI Meeting of JAXA Earth Observation Missions FY2023, TKP Shimbashi Conference Center, Tokyo, 08/11/2023
- Yixuan Liu, 木下陽平, 中国石門県における PSInSAR で得られた地すべりによる地表面変位と降水量の関係について, 日本リモートセンシング学会第 75 回 (令和 5 年度秋季) 学術講演会, フォレスト仙台, 宮城, 21/11/2023
- 木下陽平, 下妻康平, GNSS を用いた InSAR 大気遅延補正モデルの開発, 日本リモートセンシング学会第 75 回 (令和 5 年度秋季) 学術講演会, フォレスト仙台, 宮城, 21/11/2023
- 木下陽平, 下妻康平, 微小地表面変位検出へ向けた InSAR 高精度化の取り組み, 産業技術総合研究所活断層・火山研究部門セミナー, 産総研, 茨城, 04/12/2023
- 下妻康平, 木下陽平, ALOS-2 時系列解析に基づく中央構造線の地震間変位速度場検出の試み, 産業技術総合研究所活断層・火山研究部門セミナー, 産総研, 茨城, 04/12/2023
- Kohei Shimotsuma, Yohei Kinoshita, Inter-seismic Displacement Velocity Field along the Median Tectonic Line (MTL) in Shikoku, Japan by ALOS-2 Time Series Analysis, AGU 2023 Fall meeting, Moscone center, San Francisco, USA, 11/12/2023
- Yohei Kinoshita, Assessing the performance of a hybrid InSAR atmospheric delay model combined with GNSS and ERA5 global atmospheric model, AGU 2023 Fall meeting, Moscone center, San Francisco, USA, 12/12/2023

- Yixuan Liu, Yohei Kinoshita, Analysis of Time Lagged Cross Correlation Between Precipitation and Surface Displacement Derived by InSAR Time Series Method at Shimen County, China, AGU 2023 Fall meeting, Moscone center, San Francisco, USA, 14/12/2023
 - 下妻康平, 木下陽平, InSAR 時系列解析に基づく四国北東部における中央構造線の地震間変位場検出, Solist セミナー, オンライン (Zoom) , 25/12/2023
 - 櫻井隆之介, 木下陽平, InSAR を用いた筑波山周辺の地すべり観測と警戒区域の比較, 東京大学地震研究所 特定共同研究 (B) 課題「高頻度 SAR 観測による地殻・地表変動研究 (2021-B-03)」2023 年度研究集会, 東京大学地震研究所&Zoom, 22/02/2024
 - 下妻康平, 木下陽平, GNSS・InSAR 解析に基づく中央構造線ジオメトリの推定, GNSS・InSAR 解析に基づく中央構造線ジオメトリの推定, 東京大学地震研究所 特定共同研究 (B) 課題「高頻度 SAR 観測による地殻・地表変動研究 (2021-B-03)」2023 年度研究集会, 東京大学地震研究所&Zoom, 22/02/2024
 - 木下陽平, InSAR における固体潮汐変動の補正はどの程度有効か?, 東京大学地震研究所 特定共同研究 (B) 課題「高頻度 SAR 観測による地殻・地表変動研究 (2021-B-03)」2023 年度研究集会, 東京大学地震研究所&Zoom, 22/02/2024
 - 木下陽平, 衛星 SAR を用いた 2024 年能登半島地震による地表面変位の検出, 科学研究費助成事業 (特別研究促進費)「2023 年 5 月 5 日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」研究集会, 金沢文教会館&Zoom, 25/03/2024
- ◆ その他 :
- JAXA 第 3 回地球観測研究公募レイトプロポーザル 採択 (PI 1 件、CI 1 件)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
全学チュートリアル学修教育推進委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
社会工学類 広報委員会委員
リスク・レジリエンス工学学位プログラム 総務委員会委員, 学務委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動 :
学術誌査読: Scientific Reports 1 件
International Journal of Digital Earth 1 件
Remote Sensing 3 件
日本測地学会 評議員
日本測地学会 EPS 運営委員

日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAG 小委員会 委員

IGARSS 2024 Scientific committee

InSAR 地殻変動研究コミュニティ「PIXEL」 コアメンバー

日本地球惑星科学連合 「SAR」セッション コンビナー

日本リモートセンシング学会 JpGU 小委員会 委員

JAXA ALOS-4 Calibration/Validation Science Team (CVST) メンバー

氏名	黒瀬 雄大	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 データ解析 / 数学リテラシー2
 - 大学院 統計分析 / ファイナンス：理論と実践
- ◆ 指導学生数：
 - 学類 2名(秋学期のみ3名) 大学院博士前期課程 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究 「多変量／高次元の潜在変数をもつ時系列モデルの効率的ベイズ推測」(研究代表)
 - 科学研究費 基盤研究(A) 「経済・金融多変量データのベイズモデリングと政策・行動の確率的評価」(研究分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - Kurose, Yuta (2024): “Simulation of truncated and unimodal gamma distributions,” Journal of Statistical Computation and Simulation, Vol. 94(5), pp. 996--1015.
- ◆ 学会発表等：
 - Kurose, Yuta, “Stochastic volatility model with range-based correction and leverage,” 6th International Conference on Econometrics and Statistics.
 - 黒瀬 雄大, “確率的ボラティリティモデルと価格レンジに基づく補正,” 統計学・計量経済学の理論とマクロ経済・ファイナンスへの応用.
 - 黒瀬 雄大, “Simulation of truncated and unimodal gamma distributions,” 2023年度統計関連学会連合大会.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - 社会工学類 運営委員会 委員 / 入試実施委員会 委員
 - 社会工学／サービス工学学位プログラム 運営委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
学術誌査読

氏名	志田 洋平	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会・経済物理学、データサイエンス		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- 学類：プログラミング入門 A, プログラミング入門 B, データ解析, ファイナンス:理論と実践(野村証券講座)
- 大学院：社会工学のための数学

◆ 指導学生数：0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 筑波大学研究基盤支援プログラム(Sタイプ)「スマホ GPS データに基づく大都市圏人流モデルの災害事故評価への応用」(代表)
- 科学研究費 基盤研究(B)「GPS データに基づく大都市周辺のマクロ人流モデリングの基盤構築」(分担)

著書・論文等：

Hidaka, A., Shin, R., Tsuchiya, A., Nakabayashi, N., Okada, Y., & Shida, Y.
Data-driven approaches to detecting misdeliveries in truck logistics using gps data. In
2023 IEEE International Conference on Big Data (BigData), 1922–1927 (IEEE, 2023).

◆ 学会発表等：

1. 志田洋平, “都市内人流の普遍的なスケーリング則,”
2023年度第5回一般社団法人世界メッシュ研究所「世界メッシュコード研究会」, 横
浜市立大学, 2023年12月12日. (招待講演)
2. 志田洋平, “電気回路から類推した都市内人流のマッピング, 及び最近の位置情報デー
タの潮流について,”
第16回水戸MI(数学・情報数理)セミナー, 茨城大学, 2023年5月30日. (招待講演)

他 11 件

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 社会工学類 3年クラス担任
- 社会工学関連就職委員会 構成員

4. 学外の社会貢献

◆ 高大連携関連：

- 第13回茨城県高校生科学研究発表会 審査員(2023年2月)

◆ その他：

- 成城大学非常勤講師
- 2023年12月統計検定CBT委員会 第十二分科会委員・第十三分科会委員

氏名	高橋 裕紀	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類： 計量経済学/微積分2

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究 「サービス産業における従業員へのシステム化可能な顧客満足度フィードバック方法の開発」 (代表)

- ◆ 著書・論文等：

Takahashi, H., Kawasaki, S., Takenaka, T., & Nishikoori, H. (2024). Mystery shopping considering lifestyle heterogeneity. *International Journal of Services and Operations Management*, 47(3), 382-403.

- ◆ 学会発表等：

Takahashi, H., Maehara, N., Nishikoori, H., Sashima, A., & Takenaka, T. (2023, July). *Using Digital Communication Tools to Strengthen the Service Profit Chain*. 29th International Conference on Recent Advances in Retailing and Consumer Science, Lyon, France.

Yiran, L., Takahashi, H., Kohei, N., Sangjic, L., & Nishino, N. (2024, March). *A study on variation of intrinsic motivation by service activity progress*. サービス学会 第12回国内大会, 東京, 日本.

長谷川弘貴, & 高橋裕紀. (2024, March). *教師の役割と TRI に基づく ICT を用いた初等中等教育サービス価値 共創のコンセプトモデル提案*. サービス学会 第12回国内大会, 東京, 日本.

高橋裕紀. (2023, December). *Structural Topic Model を用いたサービス業アルバイトの 口コミ分析*. 第14回横幹連合コンファレンス, 東京, 日本.

Takenaka, T., Sashima, A., Nishikoori, H., Shibuya, Y., Tsuji, H., & Takahashi, H. (2023, September). *Research agenda for human capital management in the service industries with declining labor force*. The 8th International Conference on

Serviceology (ICServ2023), Tokyo, Japan.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 1年次担任/ オリエンテーション 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
サービス学会 出版委員会 委員
産業技術総合研究所 協力研究員

氏名	Tran Lam Anh Duong	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：国際金融論/マクロ経済学/計量分析システム演習/ファーストイヤーセミナー
 - 大学院前期課程：経済・政策分析
- ◆ 指導学生数：社会工学類 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 公益財団法人ヒロセ国際奨学財団 (研究助成)「グローバル・バリュー・チェーンの形成と経済発展：理論と実証」(代表)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 日越大学 修士課程公共政策プログラム (ベトナム)：授業 (Macroeconomics for Public Policy)、研究指導、運営
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：広報委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 国際奨学財団における委員会活動：公益財団法人ジャパンマテリアル国際奨学財団 選考委員 (2019年4月ー現在)
- ◆ 非常勤講師の活動：放送大学東京多摩学習センター：基礎マクロ経済学